

令和3年度野生鳥獣の生息状況等アンケート調査

集計結果概要

第1章 事業概要

1. 背景及び目的

本県においてニホンジカやイノシシによる農林業被害や生活被害が増加していることから、指定管理鳥獣の捕獲の促進に加え、本事業により農業集落ごとの野生鳥獣の生息状況や農業被害等を把握し、捕獲や防除対策等の資料とするものである。

2. 対象者および調査方法

(1) 対象者

調査対象者は、県自然保護課において各市町村から提供された行政区長や農業委員等名簿に基づき決定した。なお、名簿の提供が困難である場合には県が実施する指定管理鳥獣捕獲等事業の従事者の一部を対象とした。

(2) 調査方法

調査票によるアンケート調査（郵送法）を実施した。

(3) アンケート内容

- (1) 集落の農家戸数
- (2) 集落の共同活動
- (3) 集落の捕獲従事者数
- (4) イノシシ、シカ、ツキノワグマ及び
その他鳥獣について

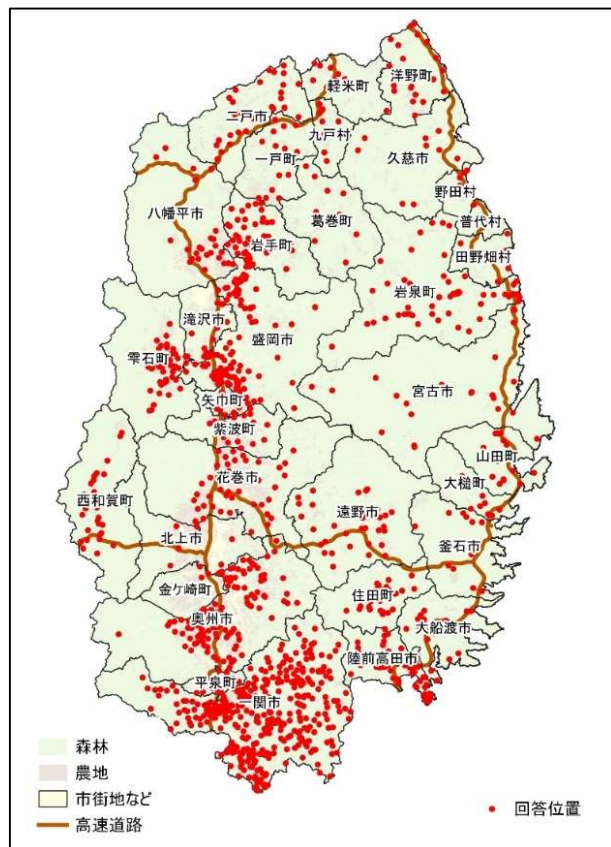


図 1-1 回答の位置図

(4) アンケートの回収状況

発送した調査票は合計 1,713 通であり、回収した調査票は 1,213 通で、回収したアンケートは全て住所や集落名等で位置の特定ができた。有効回答率は 70.8%となっている。

回答の位置図を図 1-1 に示す。

第2章 アンケート調査結果

1. 集落の状況について

(1) 集落の農家戸数

集落の農家戸数についての回答を図 2-1 に示す。回答は「10戸未満」、「10戸以上～30戸未満」、「30戸以上」の3つからの選択形式とした。

集落の農家戸数は「30戸以上」が最も多く（56%）、次いで「10戸以上～30戸未満」（35%）の順となっている。

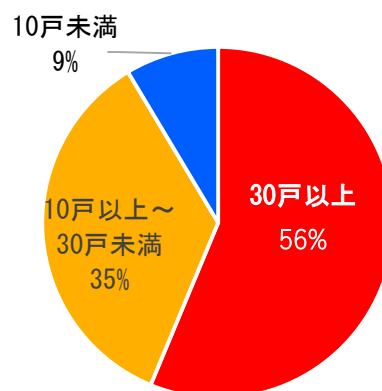


図 2-1 集落の農家戸数

(2) 獣害問題の意識

集落内での獣害問題に対する意識についての回答を図 2-2 に示す。回答は「最も重要な課題」、「重要な課題の一つ」、「集落全体の課題ではない」の3つからの選択形式とした。

獣害問題に対する意識は「重要な課題の一つ」が最も多く（52%）、次いで「集落全体の課題ではない」（32%）の順となっている。

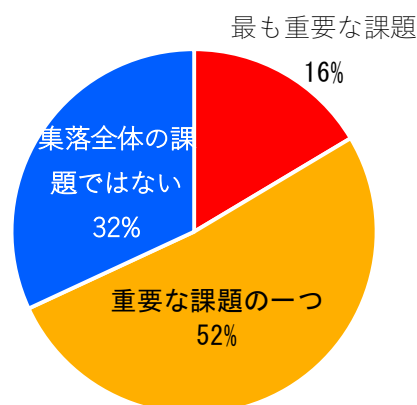


図 2-2 獣害問題の意識

(3) 集落の狩猟免許所持者、捕獲作業従事者数

回答は「わな猟」、「銃猟」、「網猟」それぞれの狩猟免許所持者数、捕獲作業従事者数を記入する形式とした。回答は「0人」、「1～2人」、「3～4人」、「5人以上」の4段階で集計した。捕獲作業従事者の集計結果を図 2-3 に示す。

捕獲従事者は「0人」と回答した割合が47%で最も多く、次いで「1～2人」となっている（41%）。

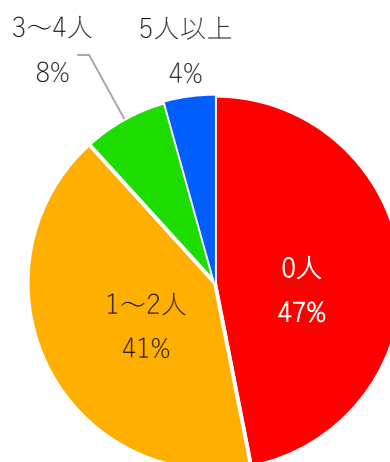


図 2-3 捕獲従事者数

(4) 集落で行っている共同活動

集落で行っている共同活動についての回答を図 2-4 に示す。

集落で行っている共同活動は「道路の草刈り」が最も多く（88.0%）、次いで「集会所やお宮の草刈り、掃除など」（77.4%）の順となっている。また、「研修会や勉強会」は26.4%となっている。

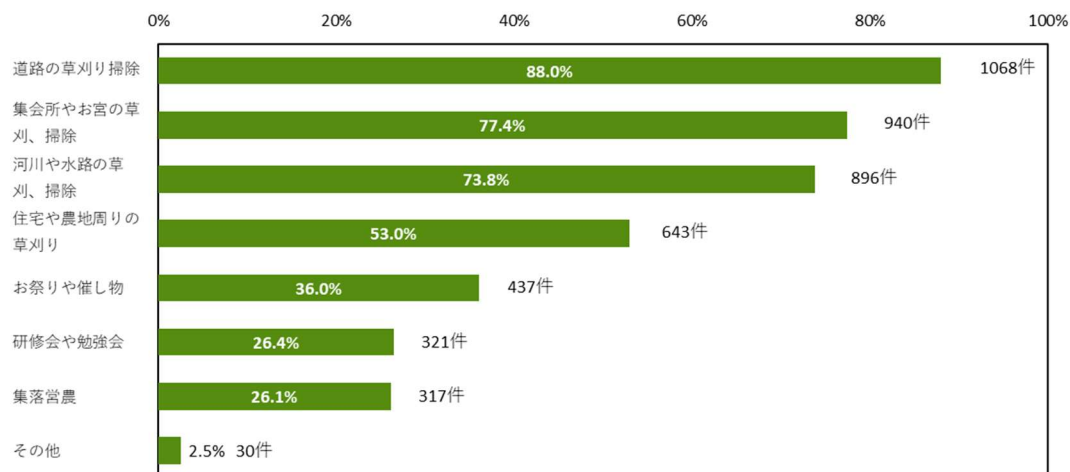


図 2-4 集落で行っている共同活動

2. イノシシについて

(1) 生息状況

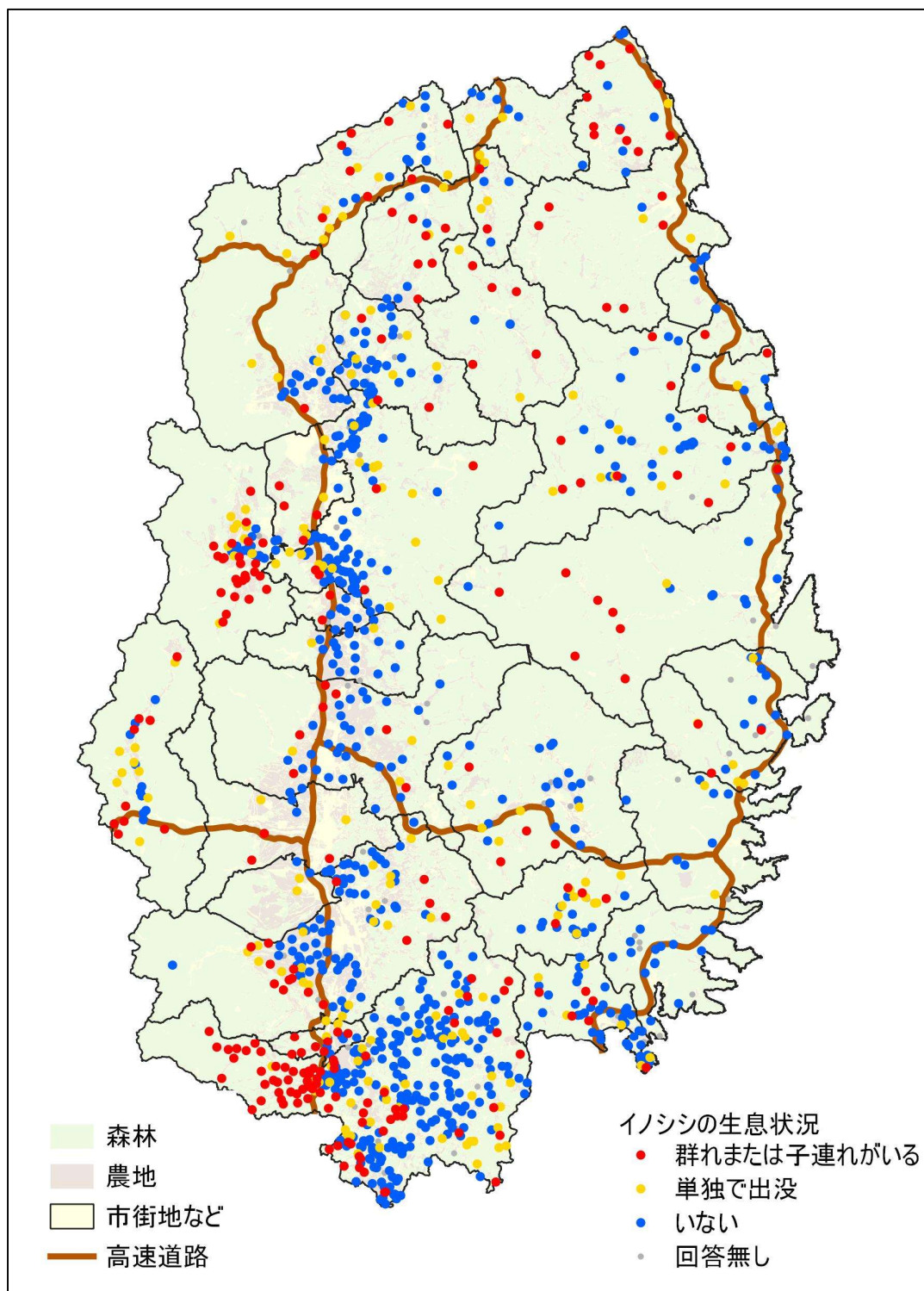


図 2-5 イノシシの生息状況

全体の回答数

回答件数：1138件（1065件）

回答	件数	割合
群れまたは子連れがいる	238件（145件）	20.9%（13.6%）
単独で出沒	198件（146件）	17.4%（13.7%）
いない	702件（774件）	61.7%（72.7%）

表の括弧内の数字は令和2年度調査結果を示す。

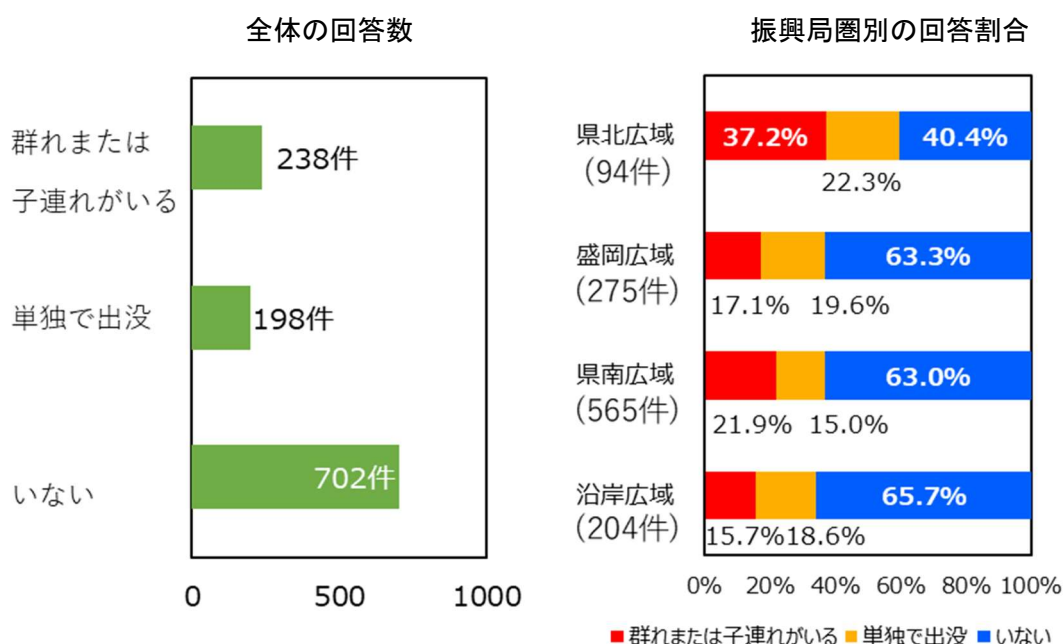


図 2-6 イノシシの生息状況の回答件数

イノシシの生息状況についての回答（回答数 1,138 件）を図 2-5、図 2-6 に示す。

回答は、「群れまたは子連れがいる」、「単独で出沒」、「いない」の3段階とした。

県全体では「群れまたは子連れがいる」と「単独で出沒」の回答を合わせた割合は 38.3%、「いない」の回答は 61.7%となっている。また、東北自動車道の西側は「群れまたは子連れがいる」との回答が多く見られるが、東側でも全域で「群れまたは子連れがいる」が散見されており、県全域に生息域が拡大している可能性がある。

令和2年度調査結果と比較すると、全体の回答の割合では「群れまたは子連れがいる」と「単独で出沒」の割合が増えている。

圏域別に見ると、県北広域で「群れまたは子連れがいる」の割合が 37.2%と高くなっている。

※「(2)出沒の増減」以降の調査は「(1)生息状況」の回答項目で「いない」以外の回答を対象として集計したものである。

(2) 出没の増減

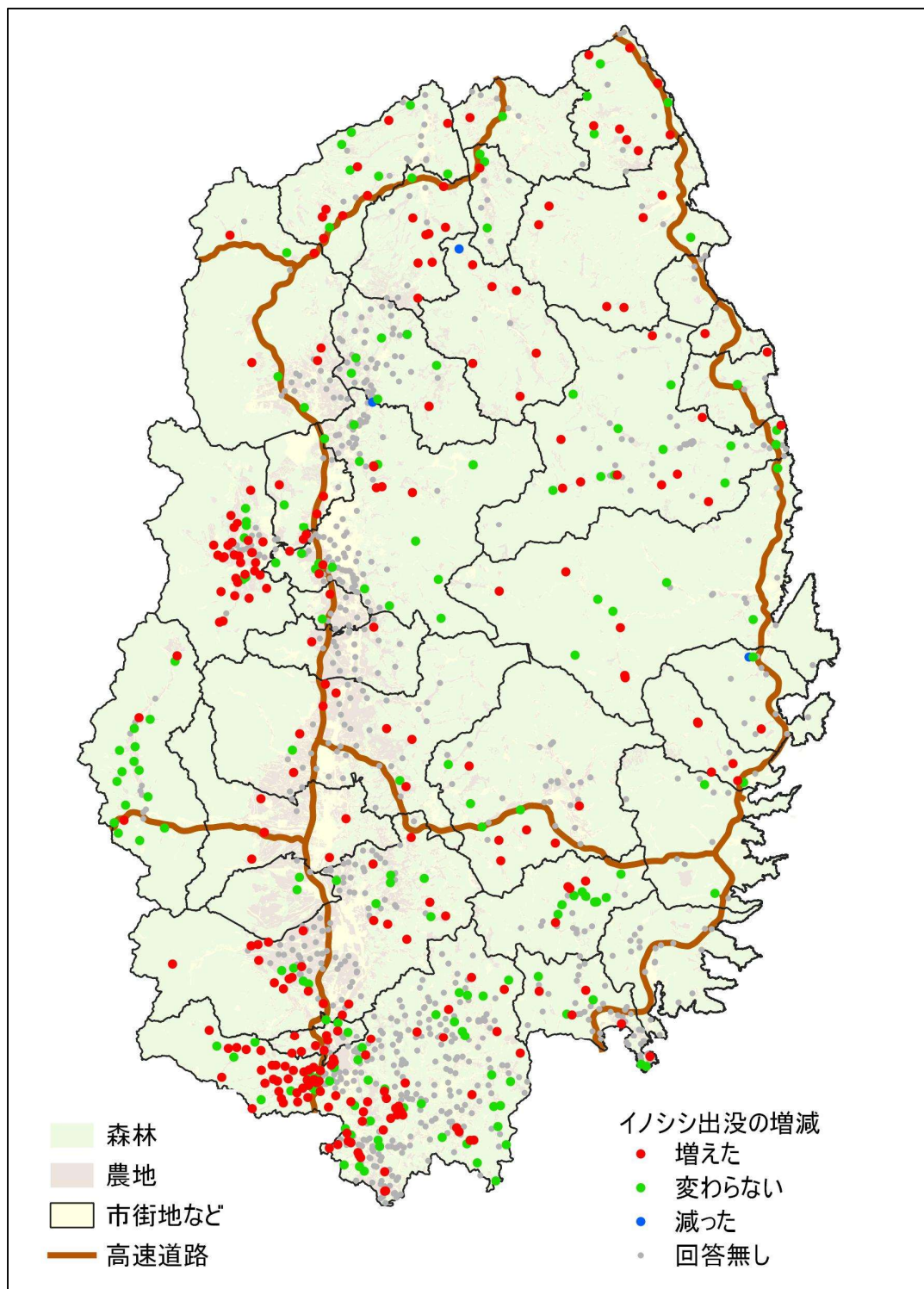


図 2-7 イノシシの出没の増減

全体の回答数

回答件数：429件（275件）

回答	件数	割合
増えた	255件（175件）	59.4%（63.6%）
変わらない	170件（93件）	39.6%（33.8%）
減った	4件（7件）	0.9%（2.5%）

表の括弧内の数字は令和2年度調査結果を示す。

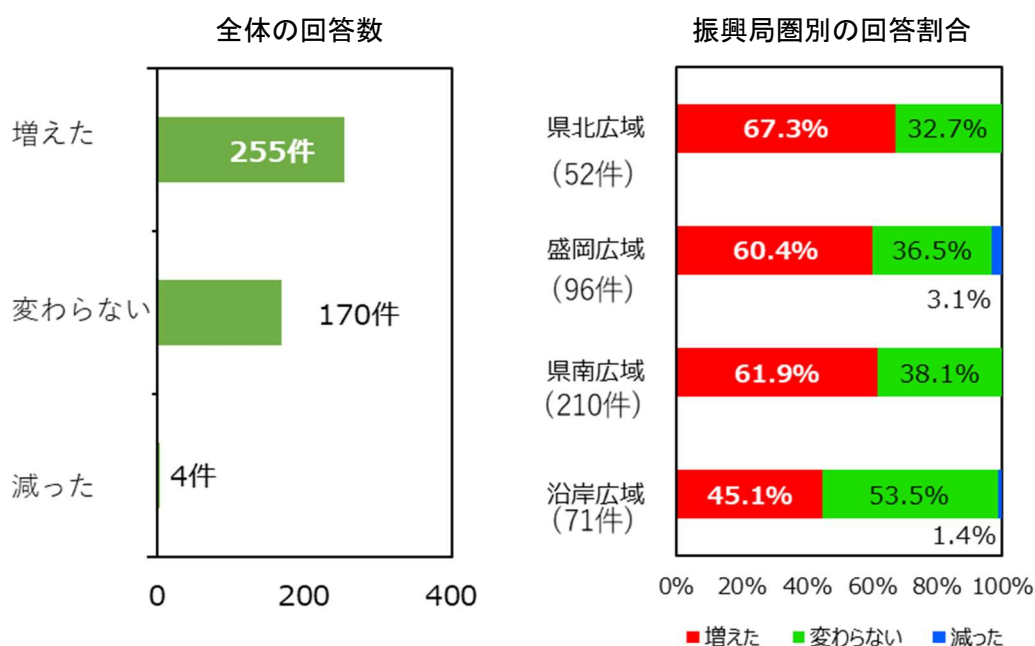


図 2-8 イノシシの出没の増減の回答件数

前年度と比較したイノシシの出没の増減についての回答（回答数 429 件）を図 2-7、図 2-8 に示す。

回答は、「増えた」、「変わらない」、「減った」の3段階とした。

県全体では出没が「増えた」との回答が最も多く（59.4%）、圏域別では沿岸広域以外の3地域で「増えた」が6割を超えている。

(3) 農業被害の程度

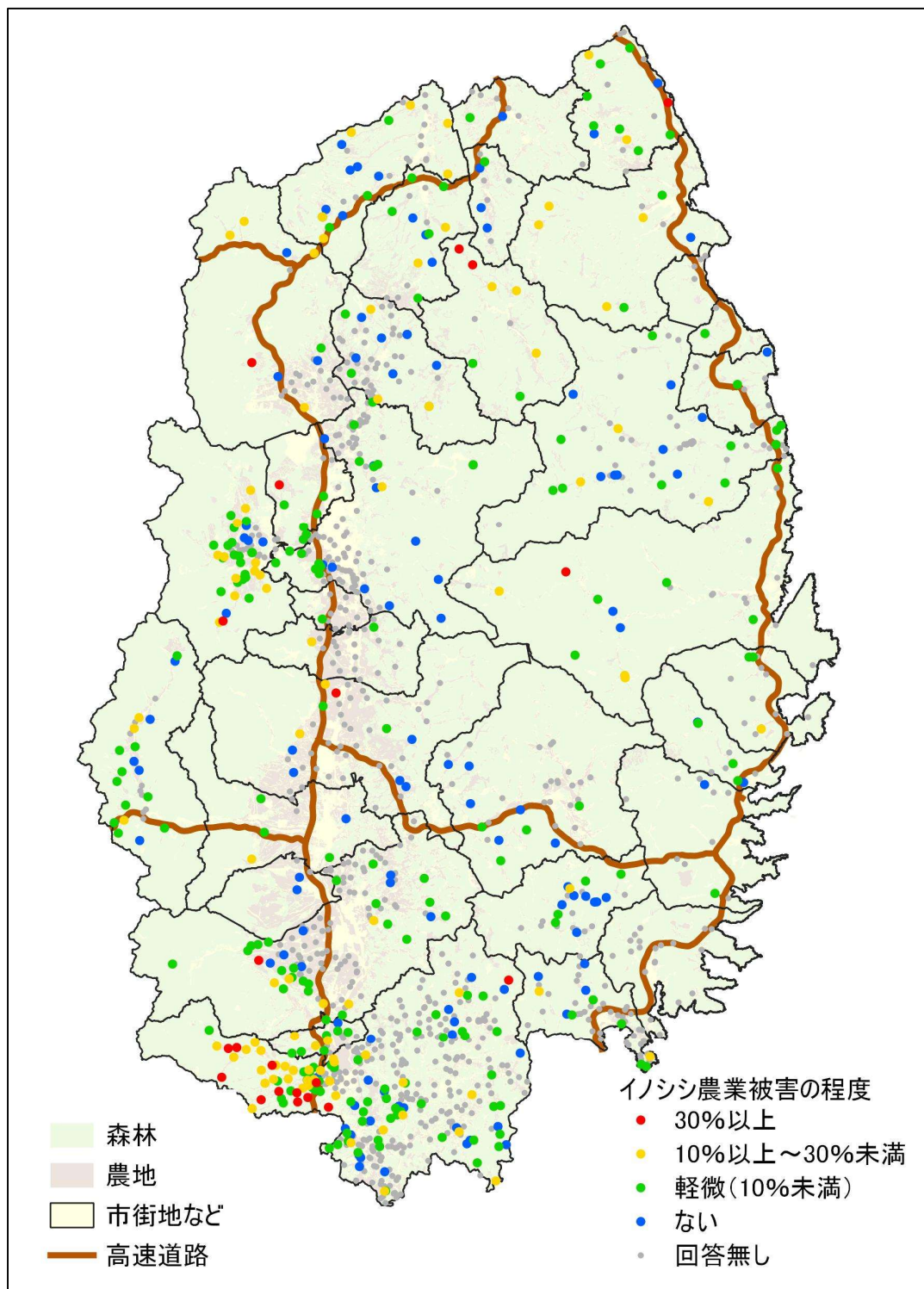


図 2-9 イノシシによる農業被害の程度

全体の回答数

回答件数：436件（285件）

回答	件数	割合
30%以上	21件（12件）	4.8%（4.2%）
10%以上～30%未満	95件（56件）	21.8%（19.6%）
軽微（10%未満）	199件（133件）	45.6%（46.7%）
ない	121件（84件）	27.8%（29.5%）

表の括弧内の数字は令和2年度調査結果を示す。

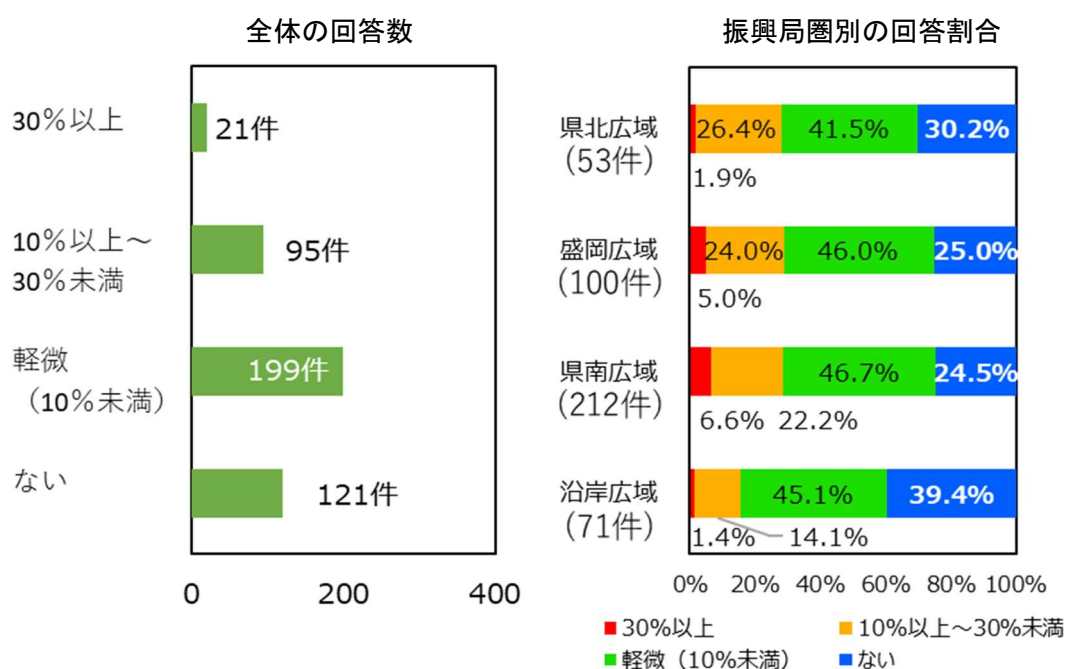


図 2-10 イノシシの農業被害の程度の回答件数

イノシシの農業被害の程度についての回答（回答数 436 件）を図 2-9、図 2-10 に示す。回答は農作物の本来の生産量を 100%として「30%以上」、「10%以上～30%未満」、「軽微（10%未満）」、「ない」の4段階とした。

県全体では被害の程度について「軽微」の回答が多く（45.6%）、次いで「ない」（27.8%）となっているが、「30%以上」と「10%以上～30%未満」の回答を合わせると全体の25%以上となっている。

圏域別の被害の程度について「30%以上」と「10%以上～30%未満」の回答を合わせた割合は県南・盛岡・県北広域圏で25%を超えている。

(4) 取り組んでいる防除対策と効果

取り組んでいる防除対策とその効果について図 2-11 に示す。複数の組み合わせで行っている場合も合わせて集計した。

単独の防除対策は「防護柵」(137 件) との回答が最も多く、次いで「やぶ刈払い」(97 件)、「捕獲」(87 件) の順となっている。

対策の効果については「防護柵」で「効果あり」と回答した割合が最も高く 7 割以上となっている。

複数の防除対策の組み合わせとしては、「防護柵+刈払い」(57 件) が多く行われているが、「防護柵+捕獲」の組み合わせが最も「効果あり」と回答した割合が高くなっている (47%)。

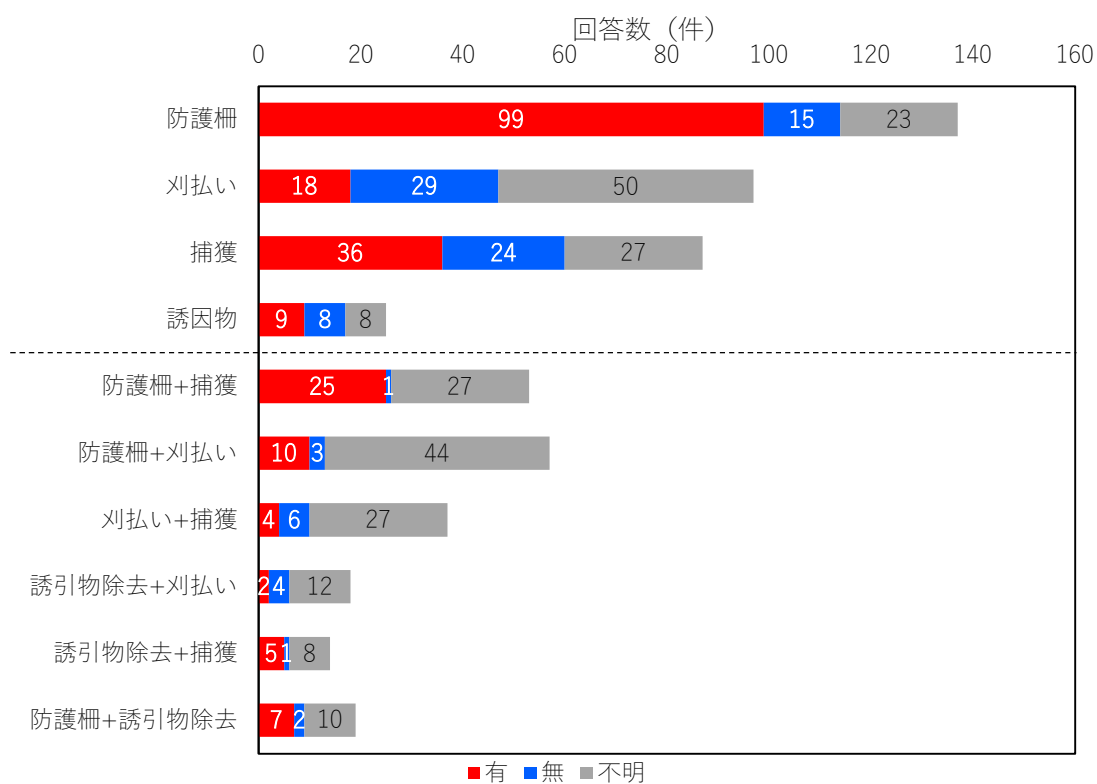


図 2-11 取り組んでいる防除対策と効果

3. ニホンジカについて

(1) 生息状況

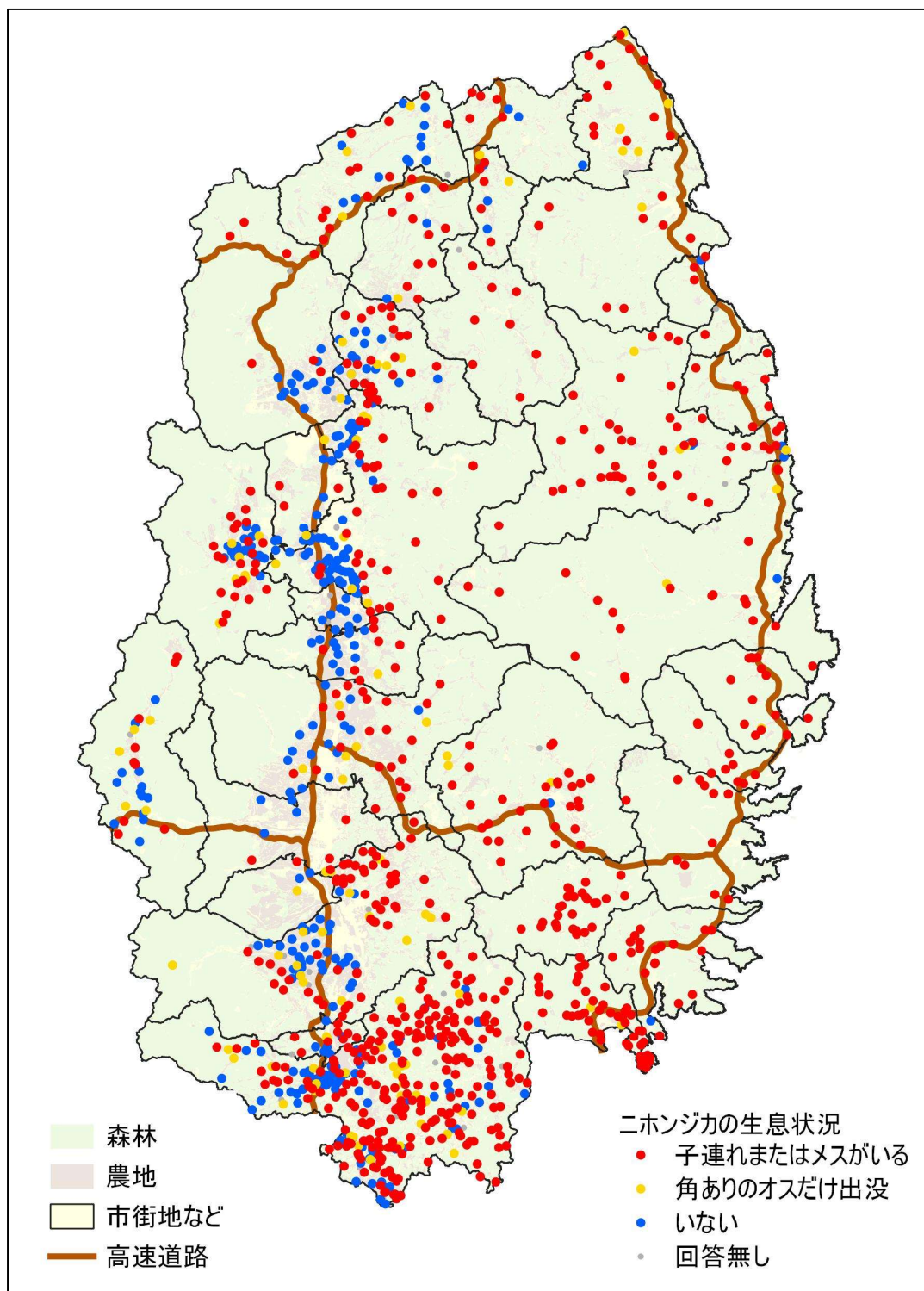


図 2-12 ニホンジカの生息状況

全体の回答数

回答件数：1172件（1099件）

回答	件数	割合
子連れまたはメスがいる	731件（656件）	62.4%（59.7%）
角ありのオスだけ出沒	112件（114件）	9.6%（10.4%）
いない	329件（329件）	28.1%（29.9%）

表の括弧内の数字は令和2年度調査結果を示す。

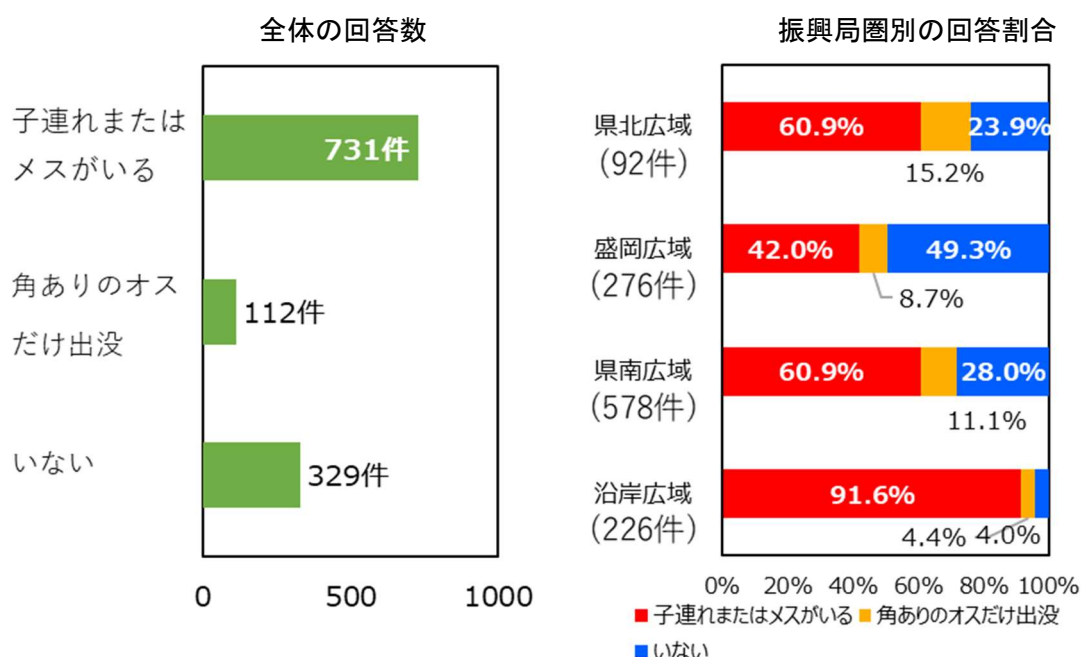


図 2-13 ニホンジカの生息状況の回答件数

ニホンジカの生息状況についての回答（回答数1,172件）を図2-12、図2-13に示す。

回答は、「子連れまたはメスがいる」、「角ありのオスだけ出沒」、「いない」の3段階とした。

県全体では「子連れまたはメスがいる」の回答が多く（62.4%）、次いで「いない」（28.1%）の順になっている。「子連れまたはメスがいる」と「角ありのオスだけ出沒」の回答を合わせると、全体の7割以上となり、地図からも分かるように都市部以外のほぼ全域でニホンジカが見られている。

圏域別に見ると、沿岸広域圏では「子連れまたはメスがいる」の割合が9割以上を占めている。また、「子連れまたはメスがいる」の割合が最も少ない盛岡広域圏でも4割を超えている。

※「(2)出沒の増減」以降の調査は「(1)生息状況」の回答項目で「いない」以外の回答を対象として集計したものである。

(2) 出没の増減

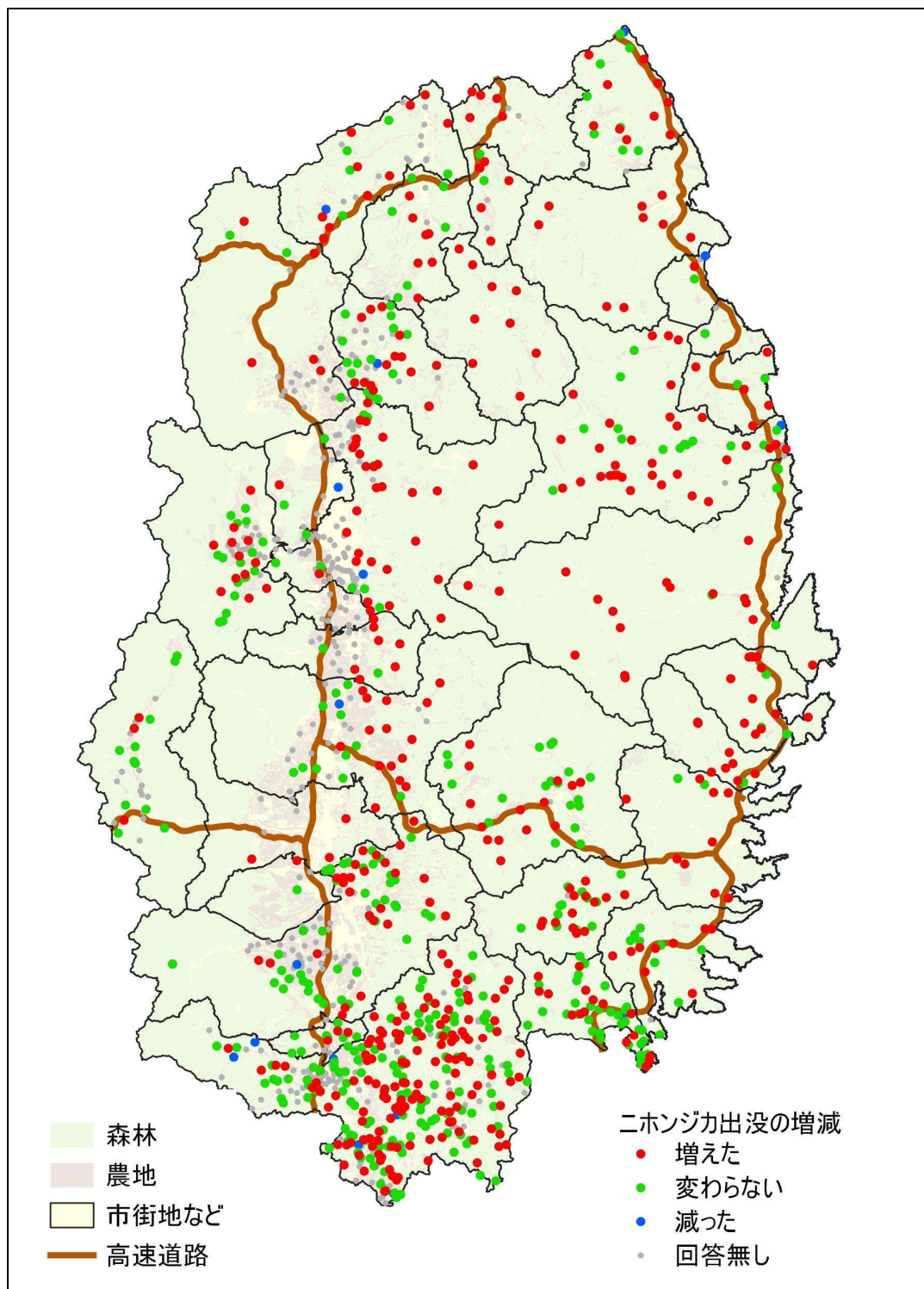


図 2-14 ニホンジカの出没の増減

全体の回答数

回答件数：844件（751件）

回答	件数	割合
増えた	458件（432件）	54.3%（57.5%）
変わらない	370件（297件）	43.8%（39.5%）
減った	16件（22件）	1.9%（2.9%）

表の括弧内の数字は令和2年度調査結果を示す。

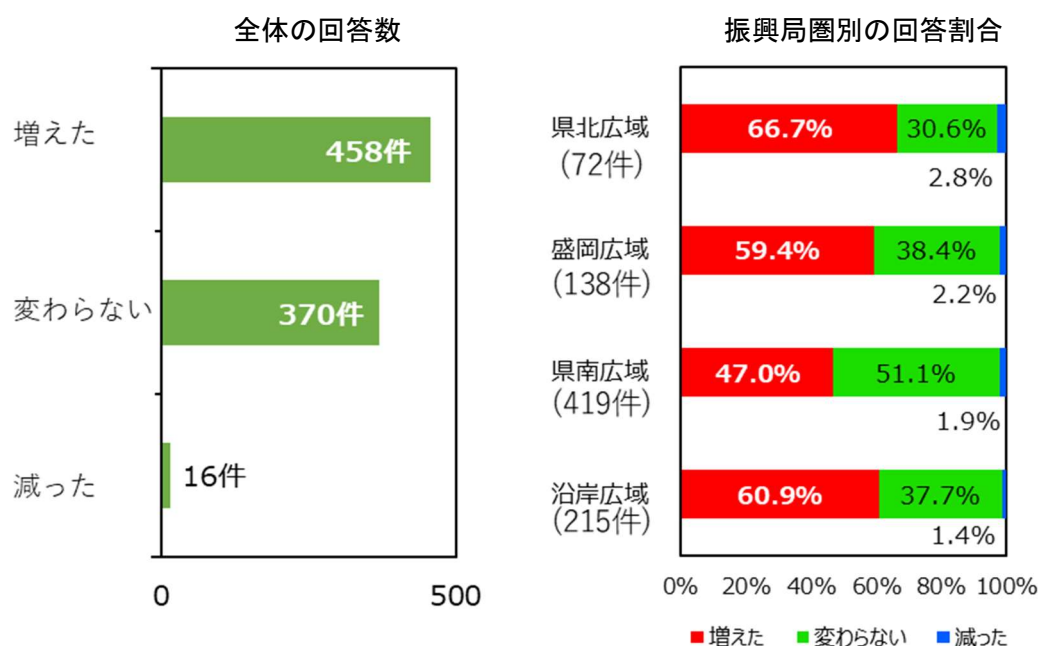


図 2-15 ニホンジカの出没の増減の回答件数

前年度と比較したニホンジカの出没の増減についての回答（回答数 844 件）を図 2-14、図 2-15 に示す。回答は、「増えた」、「変わらない」、「減った」の3段階とした。

県全体では出没が「増えた」との回答が最も多く（54.3%）、圏域別では県北広域圏で「増えた」が最も高くなっている（66.7%）。

(3) 農業被害の程度

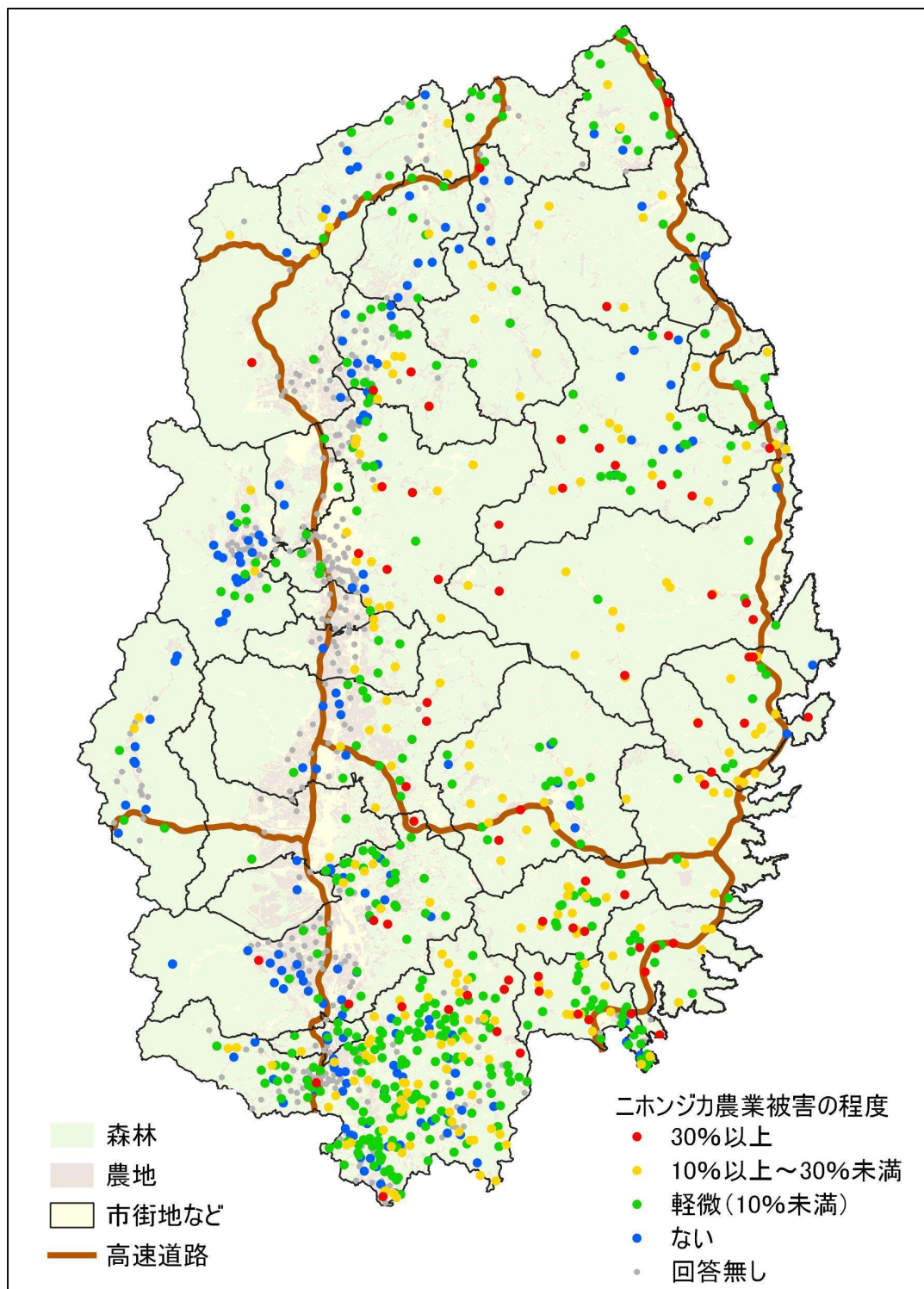


図 2-16 ニホンジカによる農業被害の程度

全体の回答数

回答件数：840件（761件）

回答	件数	割合
30%以上	68件（84件）	8.1%（11.0%）
10%以上～30%未満	212件（174件）	25.2%（22.9%）
軽微（10%未満）	384件（353件）	45.7%（46.4%）
ない	176件（150件）	21.0%（19.7%）

表の括弧内の数字は令和2年度調査結果を示す。

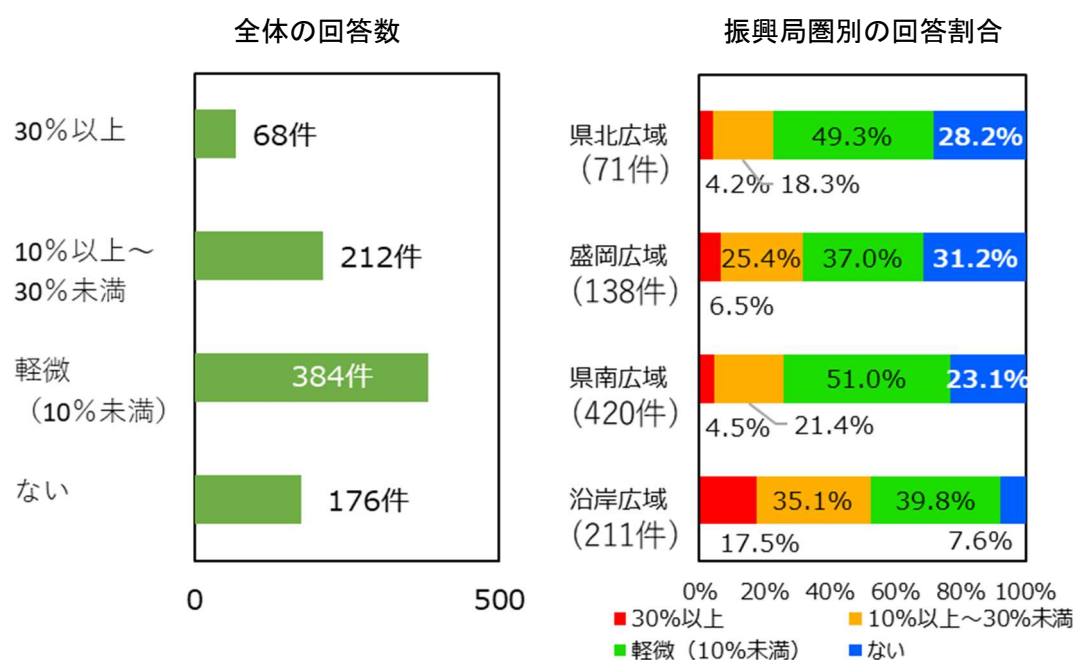


図 2-17 ニホンジカによる農業被害の程度の回答件数

ニホンジカの農業被害の程度についての回答（回答数 840 件）を図 2-16、図 2-17 に示す。

回答は農作物の本来の生産量を 100%として「30%以上」、「10%以上～30%未満」、「軽微（10%未満）」、「ない」の4段階とした。

県全体では被害の程度について「軽微」の回答が多く（45.7%）、次いで「10%以上～30%未満」（25.2%）の順となっている。

圏域別の被害の程度について「30%以上」と「10%以上～30%未満」の回答を合わせた割合は沿岸広域圏で5割を超えている。

(4) 取り組んでいる防除対策と効果

取り組んでいる防除対策とその効果について図 2-18 に示す。複数の組み合わせで行っている場合も合わせて集計した。

単独の防除対策は「防護柵」との回答が最も多く（370 件）、次いで「やぶ刈払い」（232 件）、「捕獲」（163 件）の順となっている。

対策の効果については「防護柵」を「効果あり」とした回答の割合が最も高く（73%）、次いで「捕獲」（54%）となっている。

複数の防除対策の組み合わせとしては、「防護柵+刈払い」（164 件）が多く行われており、「効果あり」の割合が最も高いのは「防護柵+捕獲」で 76%となっている。

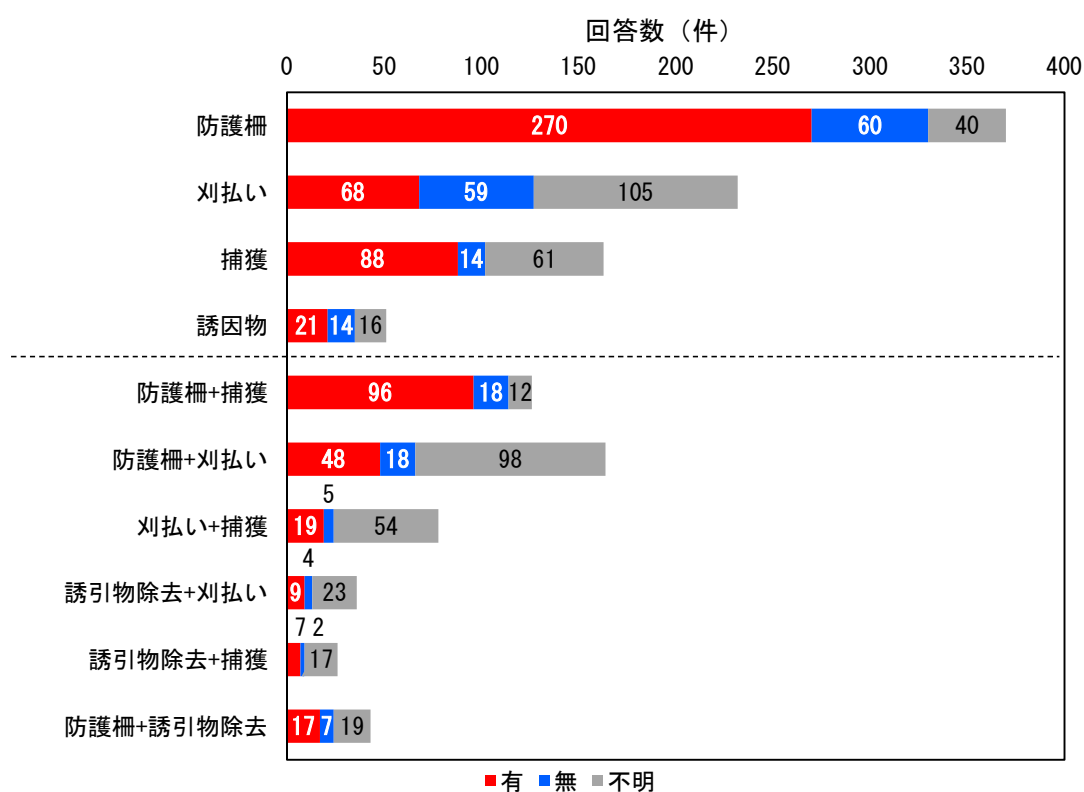


図 2-18 取り組んでいる防除対策と効果

4. ツキノワグマについて

(1) 生息状況

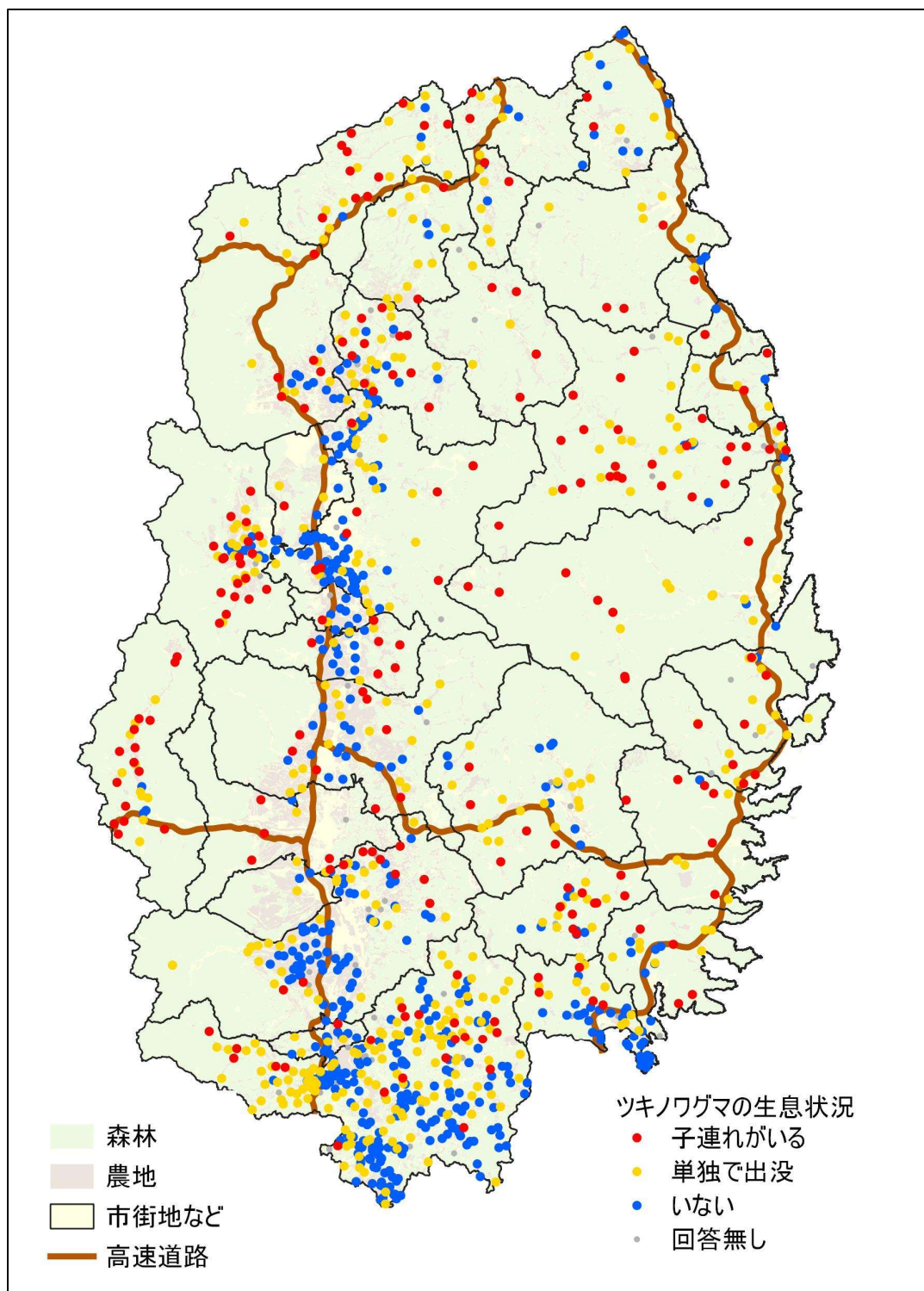


図 2-19 ツキノワグマの生息状況

全体の回答数

回答件数：1132件（1071件）

回答	件数	割合
子連れがいる	224件（210件）	19.8%（19.6%）
単独で出沒	422件（404件）	37.3%（37.7%）
いない	486件（457件）	42.9%（42.7%）

表の括弧内の数字は令和2年度調査結果を示す。

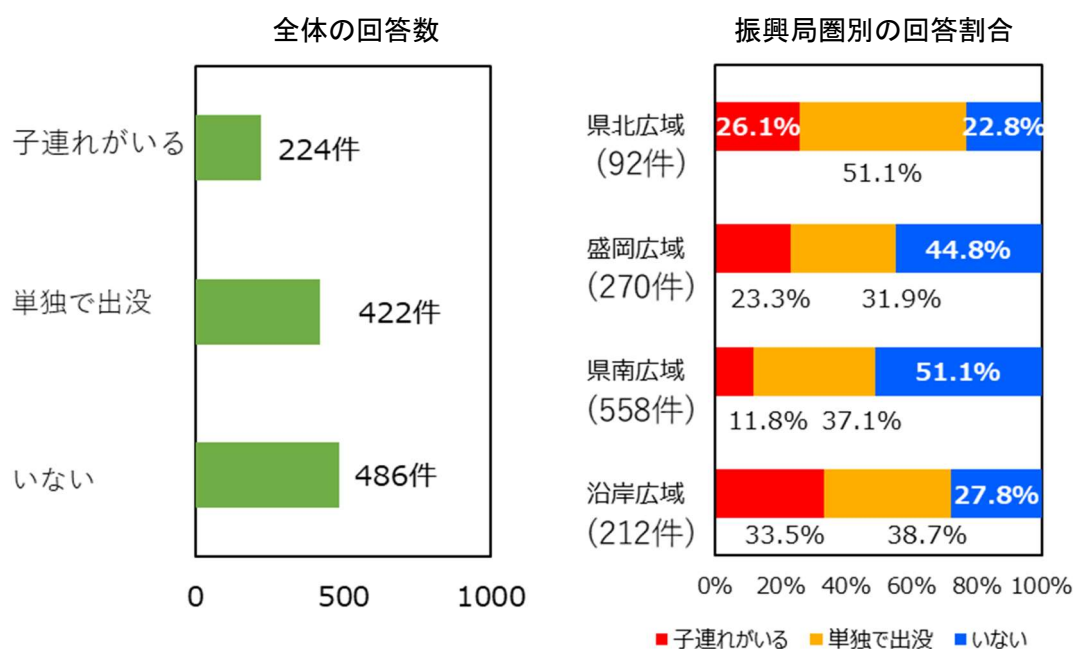


図 2-20 ツキノワグマの生息状況の回答件数

ツキノワグマの生息状況についての回答（回答数 1,132 件）を図 2-19、図 2-20 に示す。回答は、「子連れがいる」、「単独で出沒」、「いない」の3段階とした。

県全体では「いない」の回答が多く（42.9%）、次いで「単独で出沒」（37.3%）の順になっている。

圏域別に見ると、沿岸広域圏では「子連れがいる」の割合が他の圏域より高くなっている（33.5%）。

※「(2)出沒の増減」以降の調査は「(1)生息状況」の回答項目で「いない」以外の回答を対象として集計したものである。

(2) 出没の増減

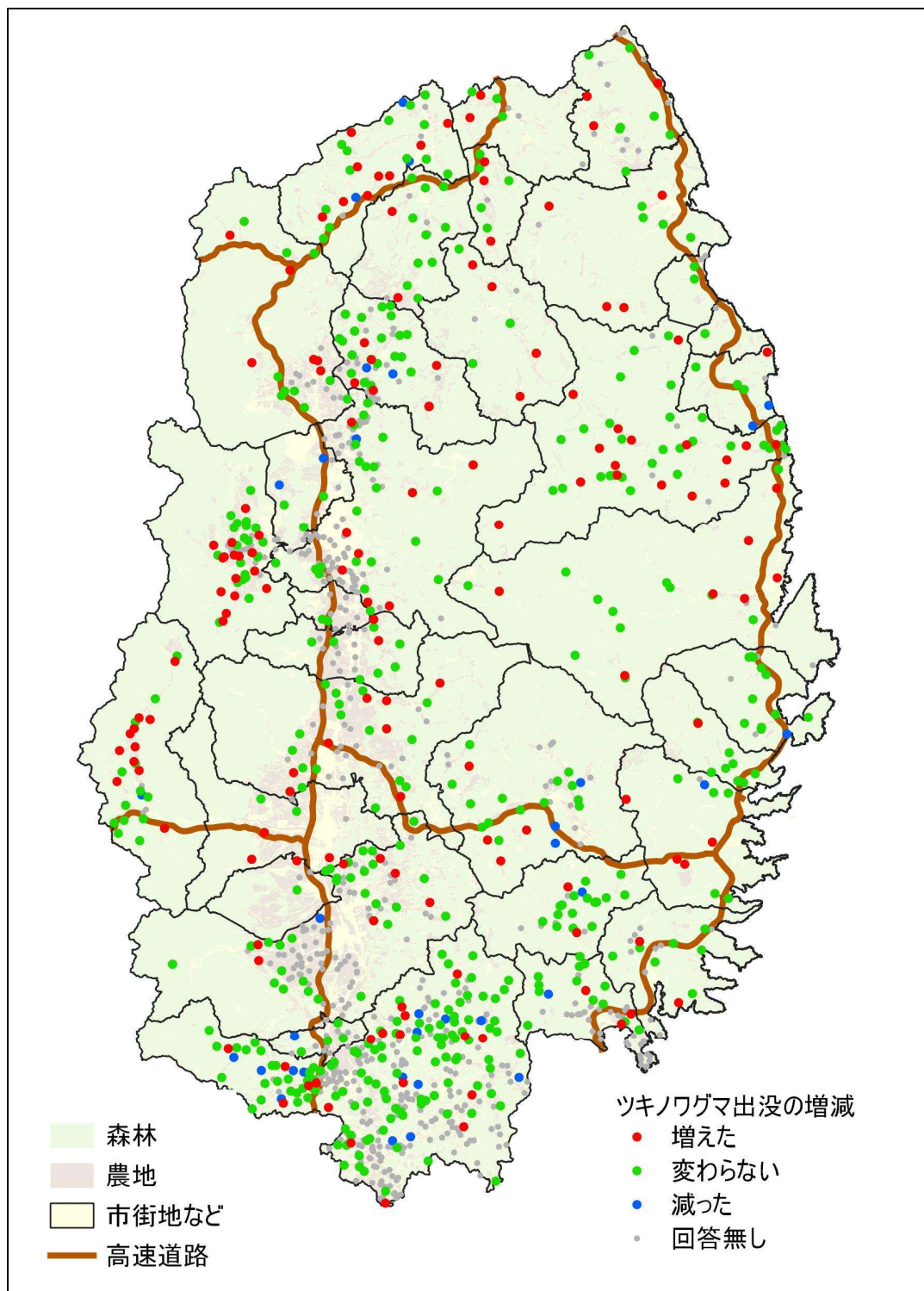


図 2-21 ツキノワグマの出没の増減

全体の回答数

回答件数：642件（593件）

回答	件数	割合
増えた	158件（248件）	24.6%（41.8%）
変わらない	449件（319件）	69.9%（53.8%）
減った	35件（26件）	5.5%（4.4%）

表の括弧内の数字は令和2年度調査結果を示す。

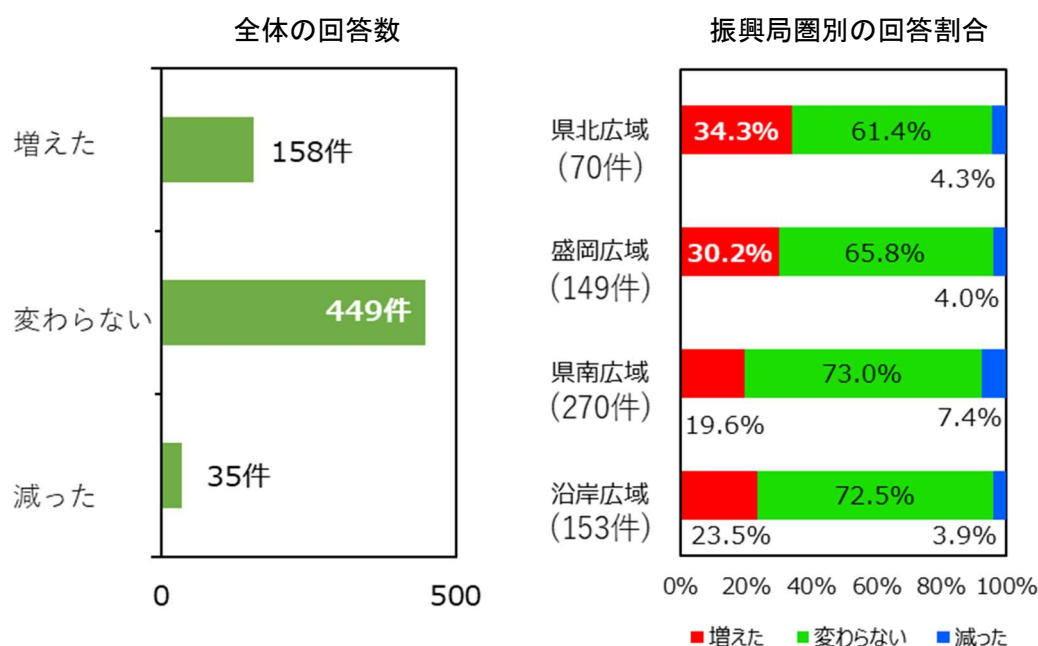


図 2-22 ツキノワグマの出没の増減の回答件数

前年度と比較したツキノワグマの出没の増減についての回答(回答数 642 件)を図 2-21、図 2-22 に示す。回答は、「増えた」、「変わらない」、「減った」の3段階とした。

県全体では出没が「変わらない」との回答が最も多く(69.9%)、次いで「増えた」(24.6%)の順となっている。

令和2年度調査結果と比較すると「増えた」の割合が減少し、「変わらない」の割合が高くなっている。

圏域別に見ると、県北広域圏で「増えた」の割合が最も高くなっている(34.3%)。

(3) 農業被害の程度

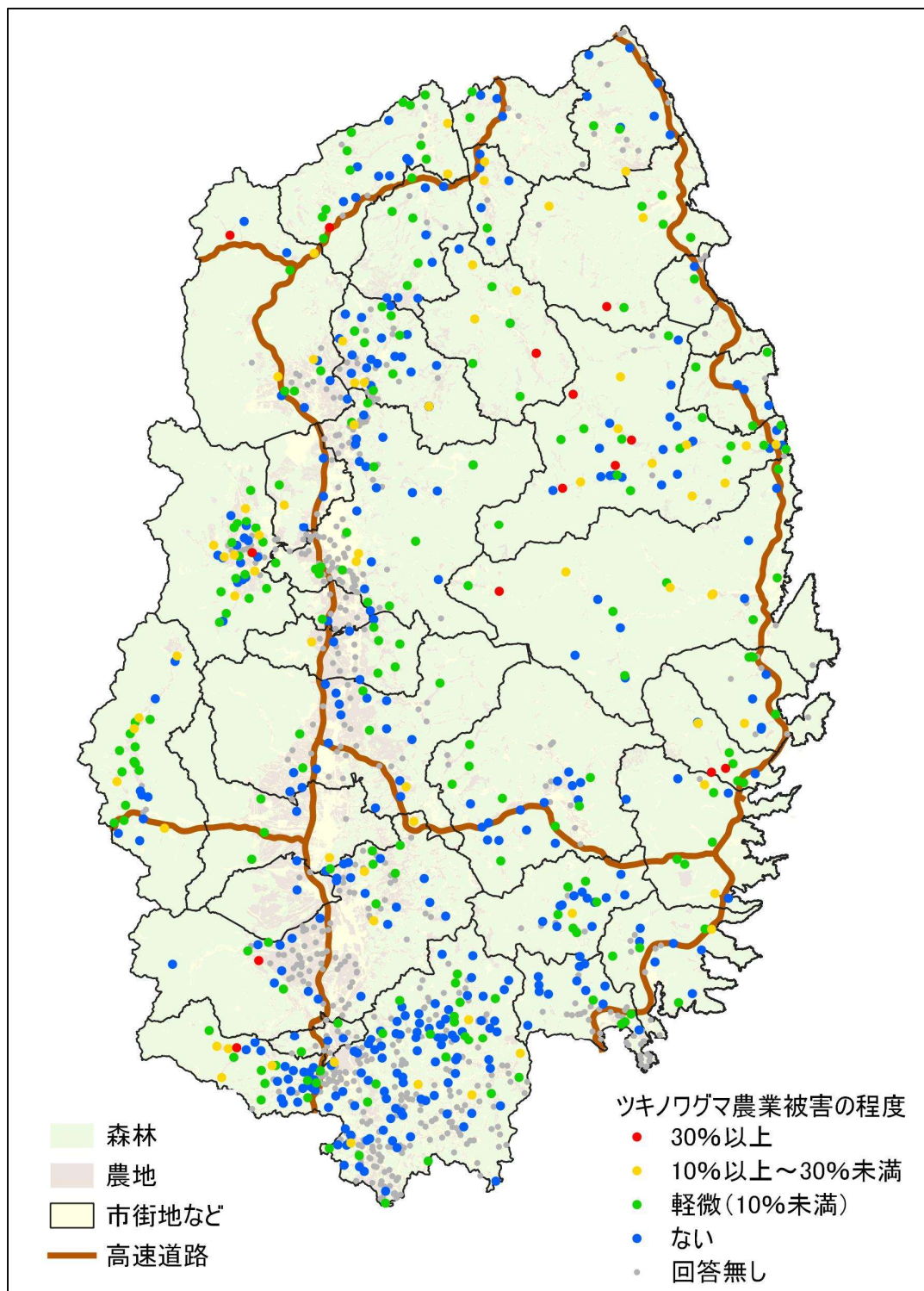


図 2-23 ツキノワグマによる農業被害の程度

全体の回答数

回答件数：630件（602件）

回答	件数	割合
30%以上	15件（17件）	2.4%（2.8%）
10%以上～30%未満	69件（74件）	11.0%（12.3%）
軽微（10%未満）	201件（217件）	31.9%（36.0%）
ない	345件（294件）	54.8%（48.8%）

表の括弧内の数字は令和2年度調査結果を示す。

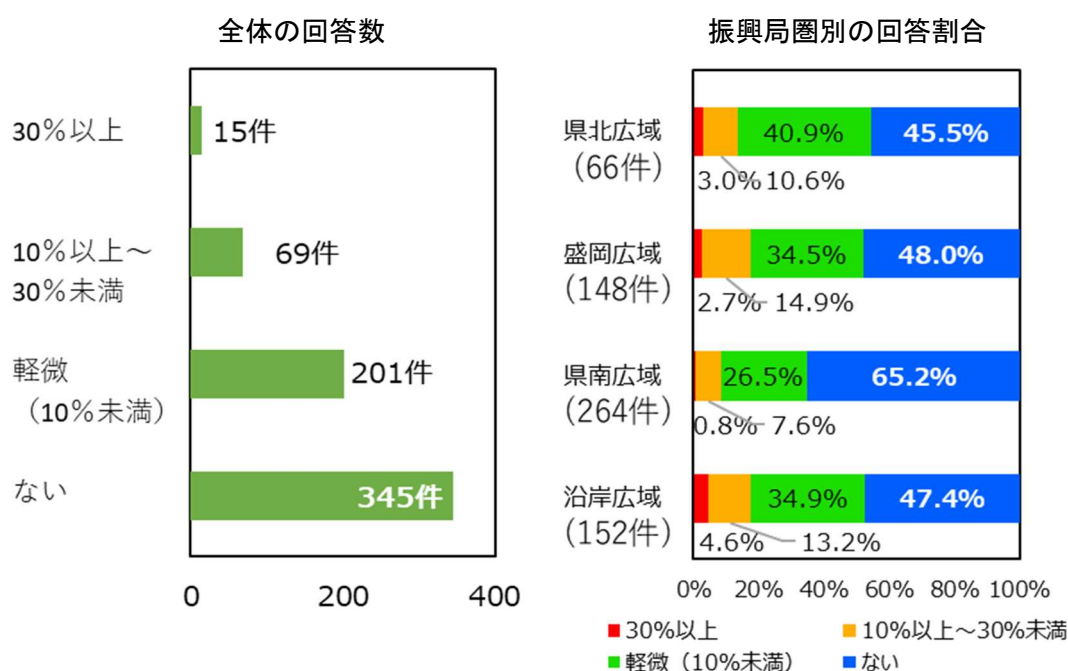


図 2-24 ツキノワグマによる農業被害の程度の回答件数

ツキノワグマの農業被害の程度についての回答（回答数 630 件）を図 2-23、図 2-24 に示す。

回答は農作物の本来の生産量を 100%として「30%以上」、「10%以上～30%未満」、「軽微（10%未満）」、「ない」の4段階とした。

県全体では被害の程度について「ない」の回答が多く（54.8%）、次いで「軽微（10%未満）」（31.9%）の順となっている。

令和2年度調査結果と比較すると、「軽微（10%未満）」の割合が減少し、「ない」の割合が増加している。

(4) 取り組んでいる防除対策と効果

取り組んでいる防除対策とその効果について図 2-25 に示す。複数の組み合わせで行っている場合も合わせて集計した。

単独の防除対策は「防護柵」(115 件) との回答が最も多く、次いで「やぶ刈払い」(85 件)、「捕獲」(73 件) の順となっている。

対策の効果については「捕獲」を「効果あり」とした回答の割合が 64% と最も高く、次いで「防護柵」(61%) となっている。

複数の防除対策の組み合わせとしては、「防護柵+刈払い」(45 件) が多く行われており、「効果あり」の割合が最も高いのは「誘引物除去+捕獲」となっている (47%)。

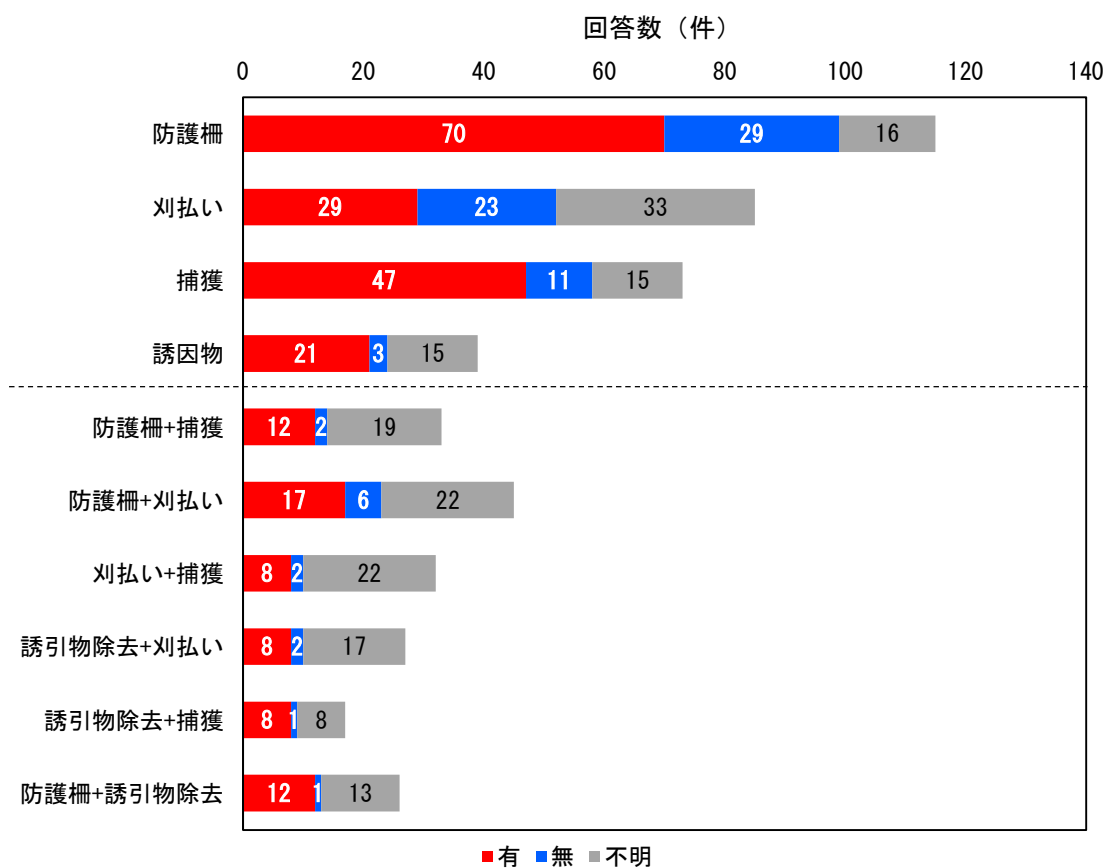


図 2-25 取り組んでいる防除対策と効果

5. カモシカについて

(1) 出没状況

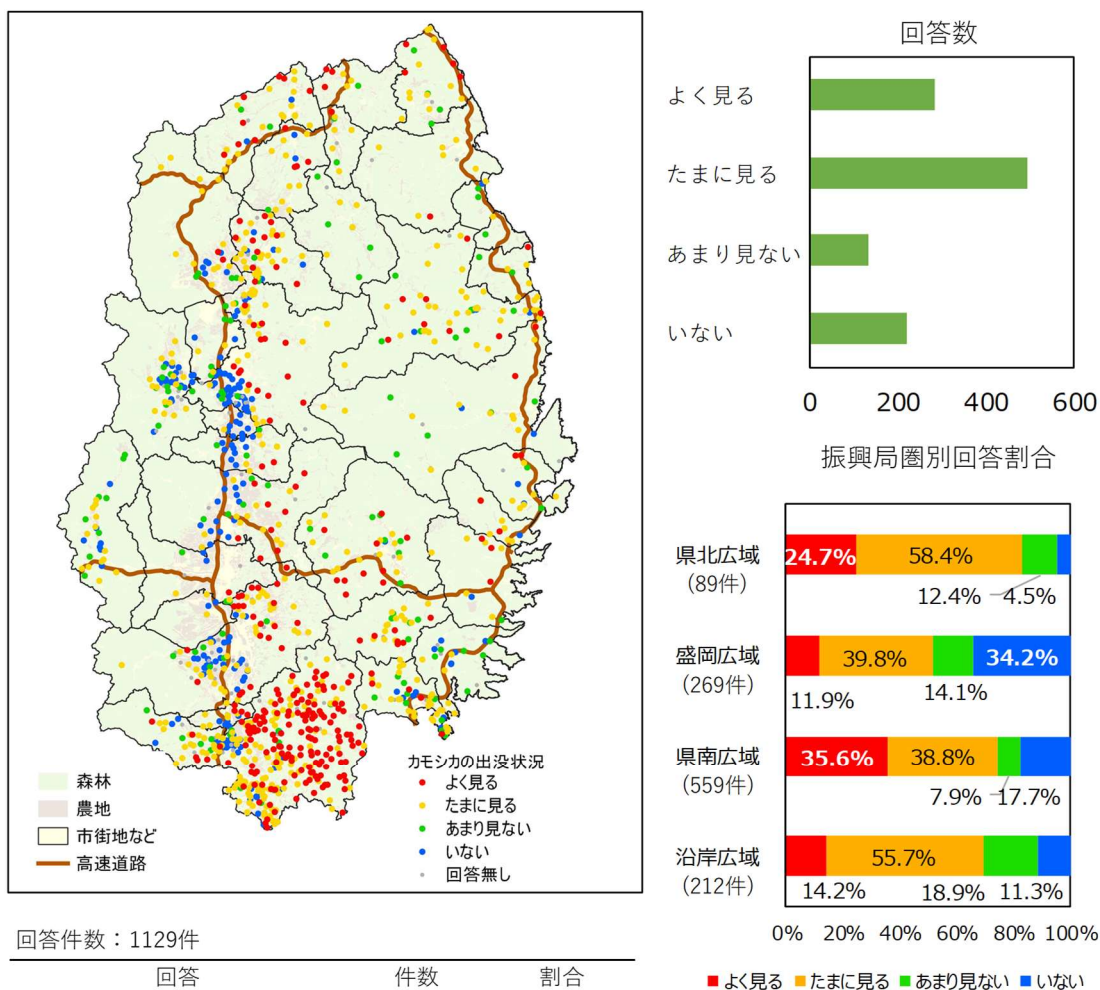


図 2-26 カモシカの出没状況

カモシカの出没状況についての回答（回答数 1,129 件）を図 2-26 に示す。

回答は、「よく見る」、「たまに見る」、「あまり見ない」、「いない」の4段階とした。

県全体では「たまに見る」の回答が多く（43.8%）、次いで「よく見る」（25.1%）となっている。

圏域別に見ると、県南広域圏では「よく見る」と回答した割合が他の圏域より高くなっている（35.6%）。

※「(2) 出没の増減」以降の調査は「(1) 出没状況」の回答項目で「いない」以外の回答を対象として集計したものである。

(2) 出没の増減

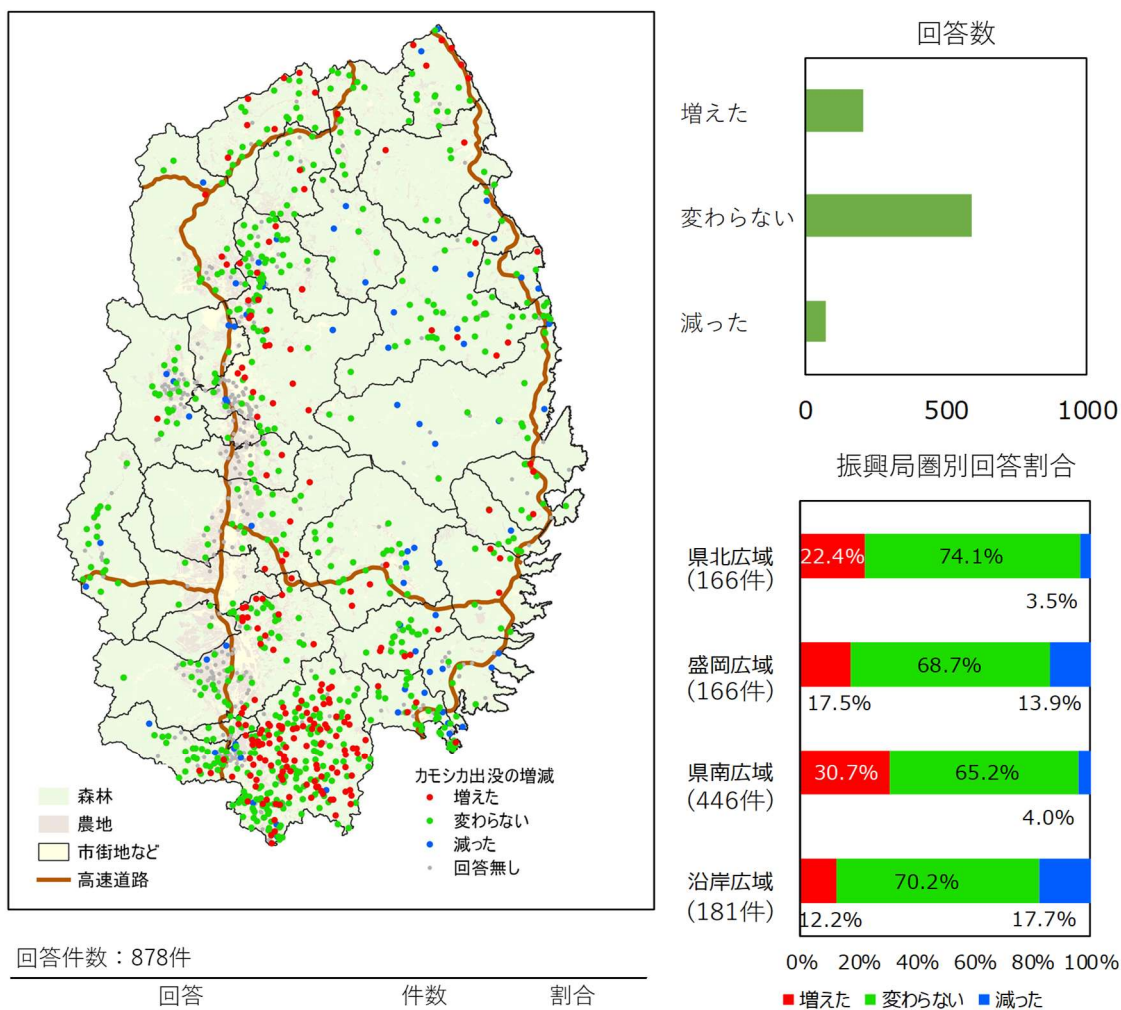


図 2-27 カモシカの出没の増減

前年度と比較したカモシカの出没の増減についての回答（回答数 878 件）を図 2-27 に示す。

回答は、「増えた」、「変わらない」、「減った」の 3 段階とした。

県全体では頭数が「変わらない」との回答が最も多く（67.8%）、次いで「増えた」（23.6%）の順となっている。

圏域別に見ると、県南広域圏で「増えた」の割合が最も高くなっている（30.7%）。

(3) 農業被害の程度

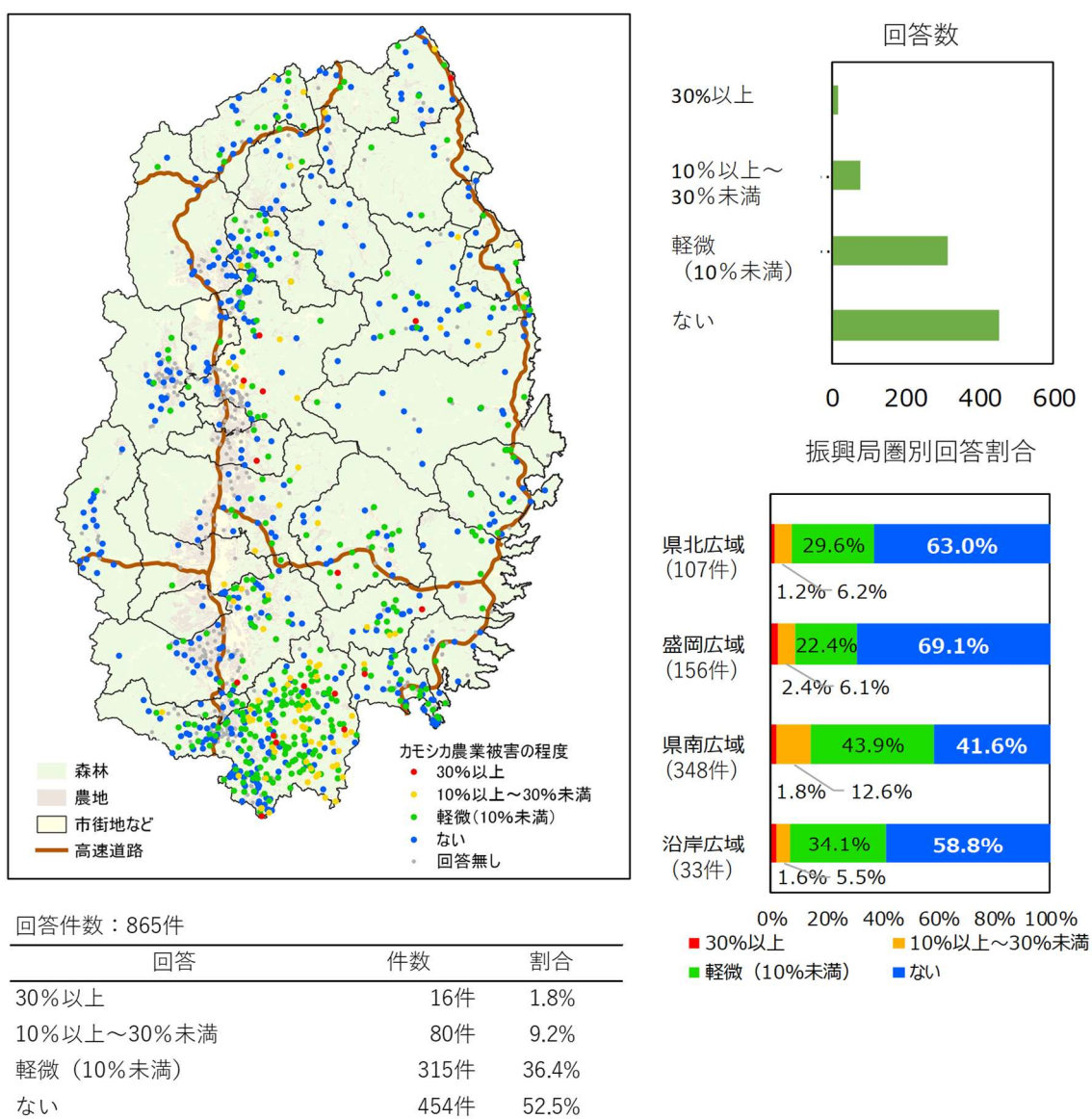


図 2-28 カモシカによる農業被害の程度

カモシカの農業被害の程度についての回答（回答数 865 件）を図 2-28 に示す。

回答は農作物の本来の生産量を 100%として「30%以上」、「10%以上～30%未満」、「軽微（10%未満）」、「ない」の4段階とした。

県全体では被害の程度について「ない」の回答が多く（52.5%）、次いで「軽微（10%未満）」（36.4%）の順となっている。

圏域別の被害の程度について「30%以上」と「10%以上～30%未満」の回答を合わせた割合は県南広域圏が最も高く、14.4%となっている。

(4) 取り組んでいる防除対策と効果

取り組んでいる防除対策とその効果について図 2-29 に示す。複数の組み合わせで行っている場合も合わせて集計した。

単独の防除対策は「防護柵」(193 件) との回答が最も多く、「効果あり」と回答した割合が 68% となっている。

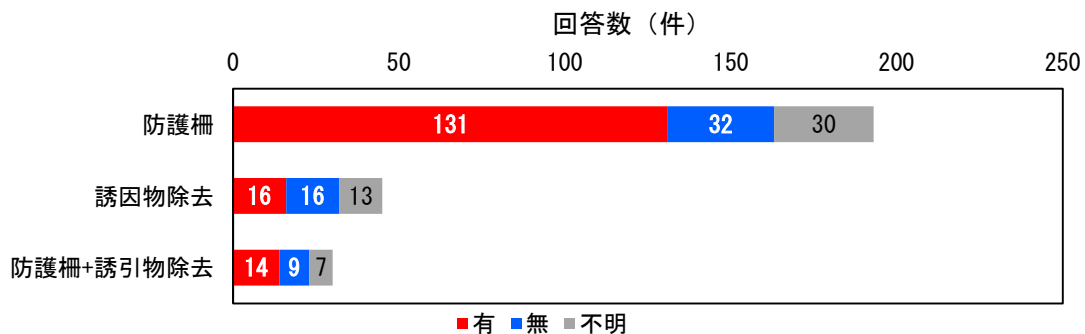


図 2-29 取り組んでいる防除対策と効果

6. ニホンザルについて

(1) 出沒状況

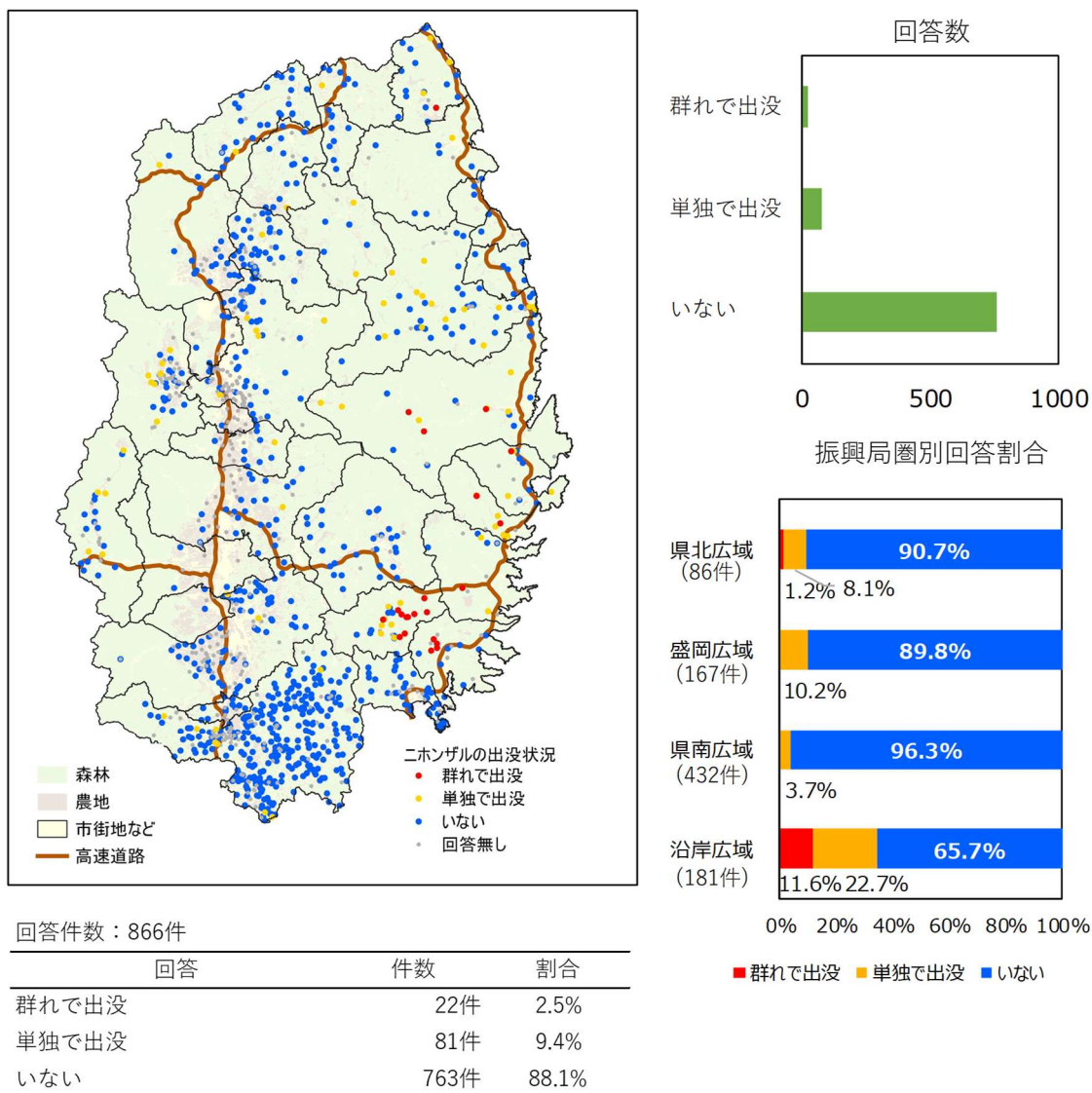


図 2-30 ニホンザルの出沒状況

ニホンザルの出沒状況についての回答（回答数 866 件）を図 2-30 に示す。

回答は、「群れで出沒」、「単独で出沒」、「いない」の3段階とした。

県全体では「単独で出沒」が9.4%、「群れで出沒」が2.5%となっている。地図上では「単独で出沒」は広域で散見されることがわかる。

圏域別に見ると、沿岸広域圏では「群れで出沒」と回答した割合が他の圏域より高くなっている（11.6%）。

※「(2) 出沒の増減」以降の調査は「(1) 出沒状況」の回答項目で「いない」以外の回答を対象として集計したものである。

(2) 出没の増減

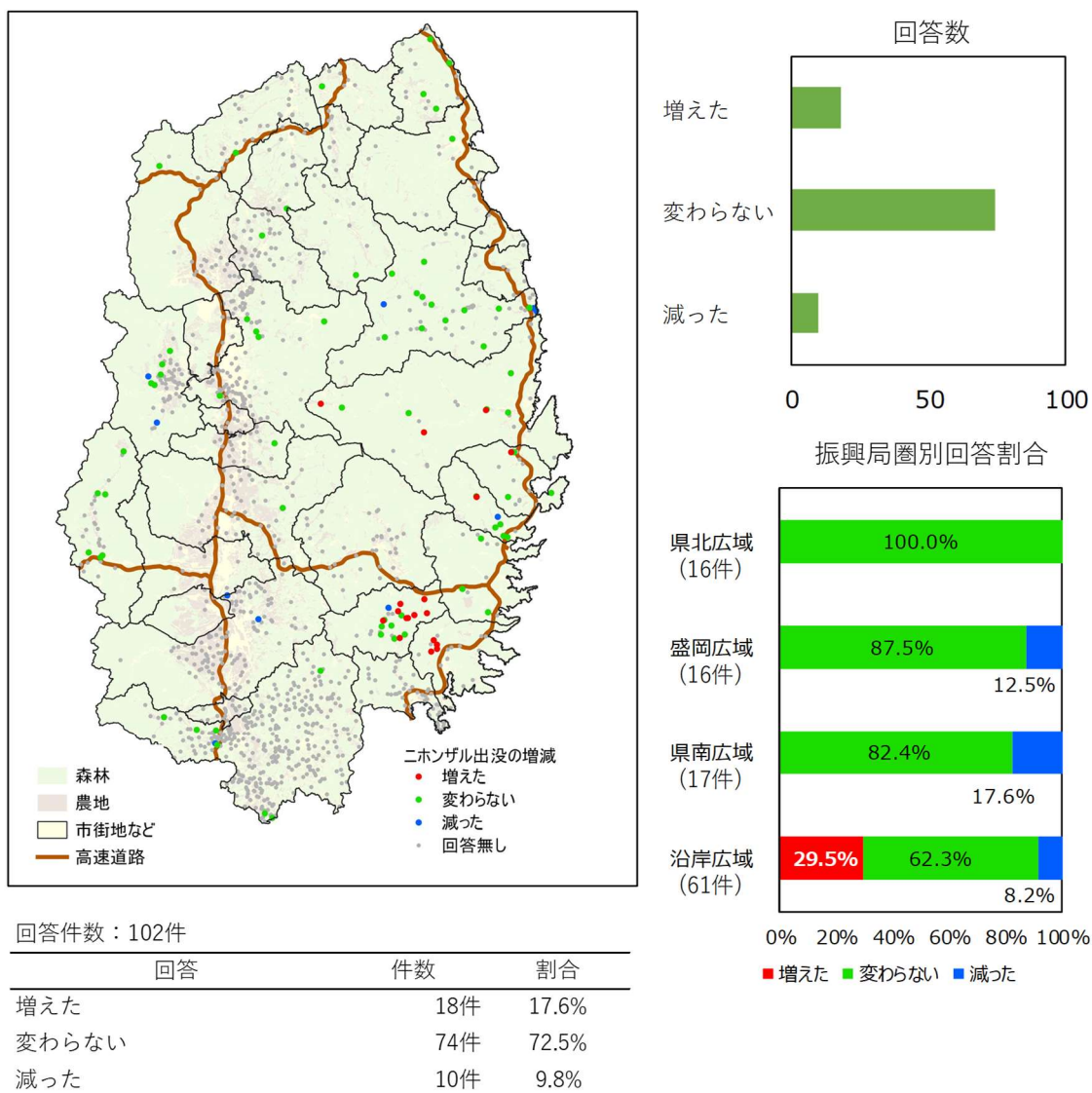


図 2-31 ニホンザルの出没の増減

前年度と比較したニホンザルの出没の増減についての回答（回答数 102 件）を図 2-31 に示す。

回答は、「増えた」、「変わらない」、「減った」の3段階とした。

県全体では頭数が「変わらない」との回答が最も多く（72.5%）、次いで「増えた」（17.6%）の順となっている。

圏域別に見ると、沿岸広域圏で「増えた」の割合が最も高くなっている（29.5%）。

(3) 農業被害の程度

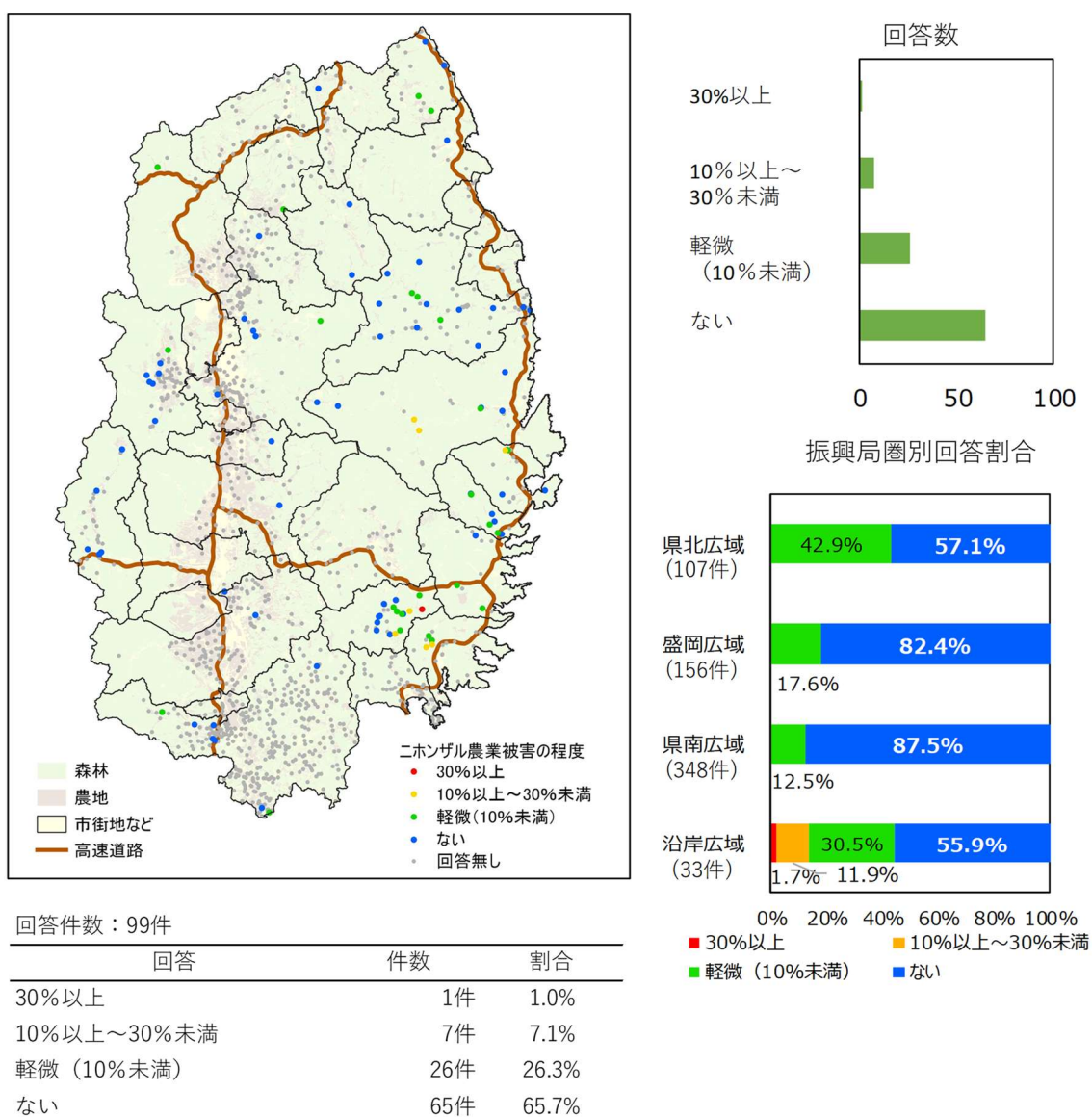


図 2-32 ニホンザルによる農業被害の程度

ニホンザルの農業被害の程度についての回答（回答数 99 件）を図 2-32 に示す。

回答は農作物の本来の生産量を 100%として「30%以上」、「10%以上～30%未満」、「軽微（10%未満）」、「ない」の4段階とした。

県全体では被害の程度について「ない」の回答が多く（65.7%）、次いで「軽微（10%未満）」（26.3%）の順となっている。

圏域別の被害の程度について「30%以上」と「10%以上～30%未満」の回答を合わせた割合は沿岸広域圏が最も高く、13.6%となっている。

(4) 取り組んでいる防除対策と効果

取り組んでいる防除対策とその効果について図 2-33 に示す。

単独の防除対策は「防護柵」(34 件) との回答が最も多く、次いで「花火による追払い」(20 件)、の順となっている。

対策の効果については 10 件以上回答がある対策の中では「花火による追払い」を「効果あり」とした回答の割合が 40% と最も高い。

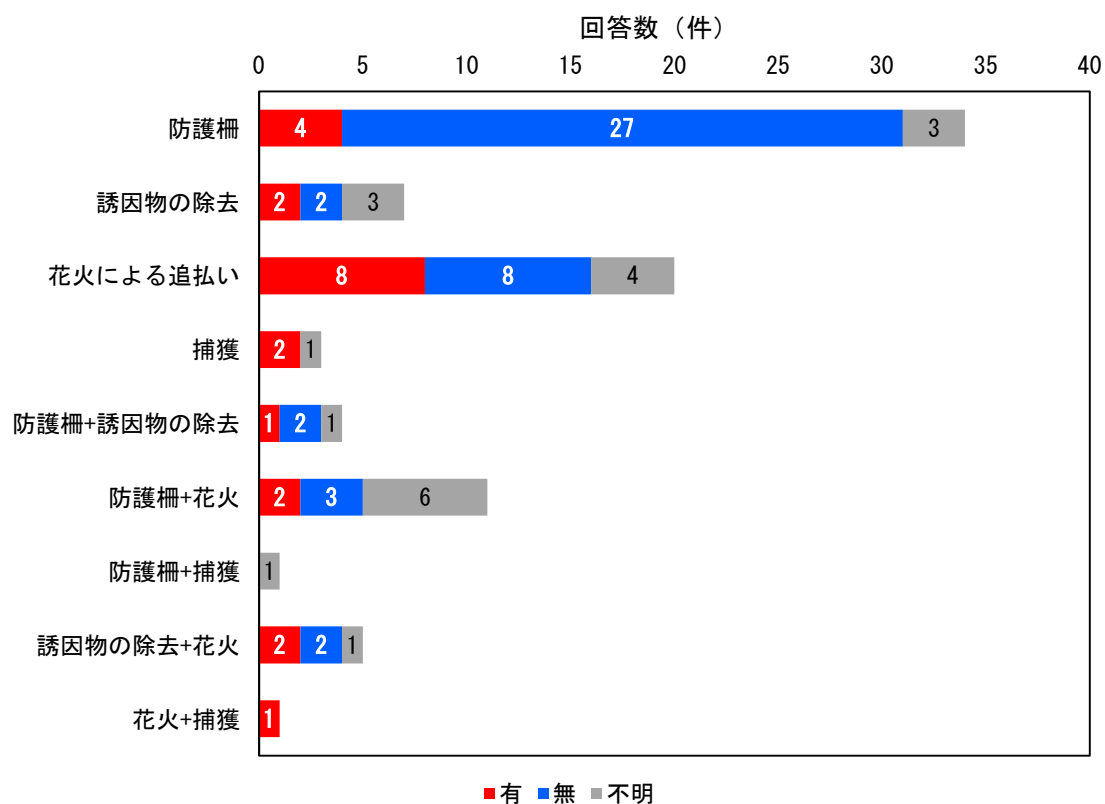


図 2-33 取り組んでいる防除対策と効果

7. ハクビシンについて

(1) 出没状況

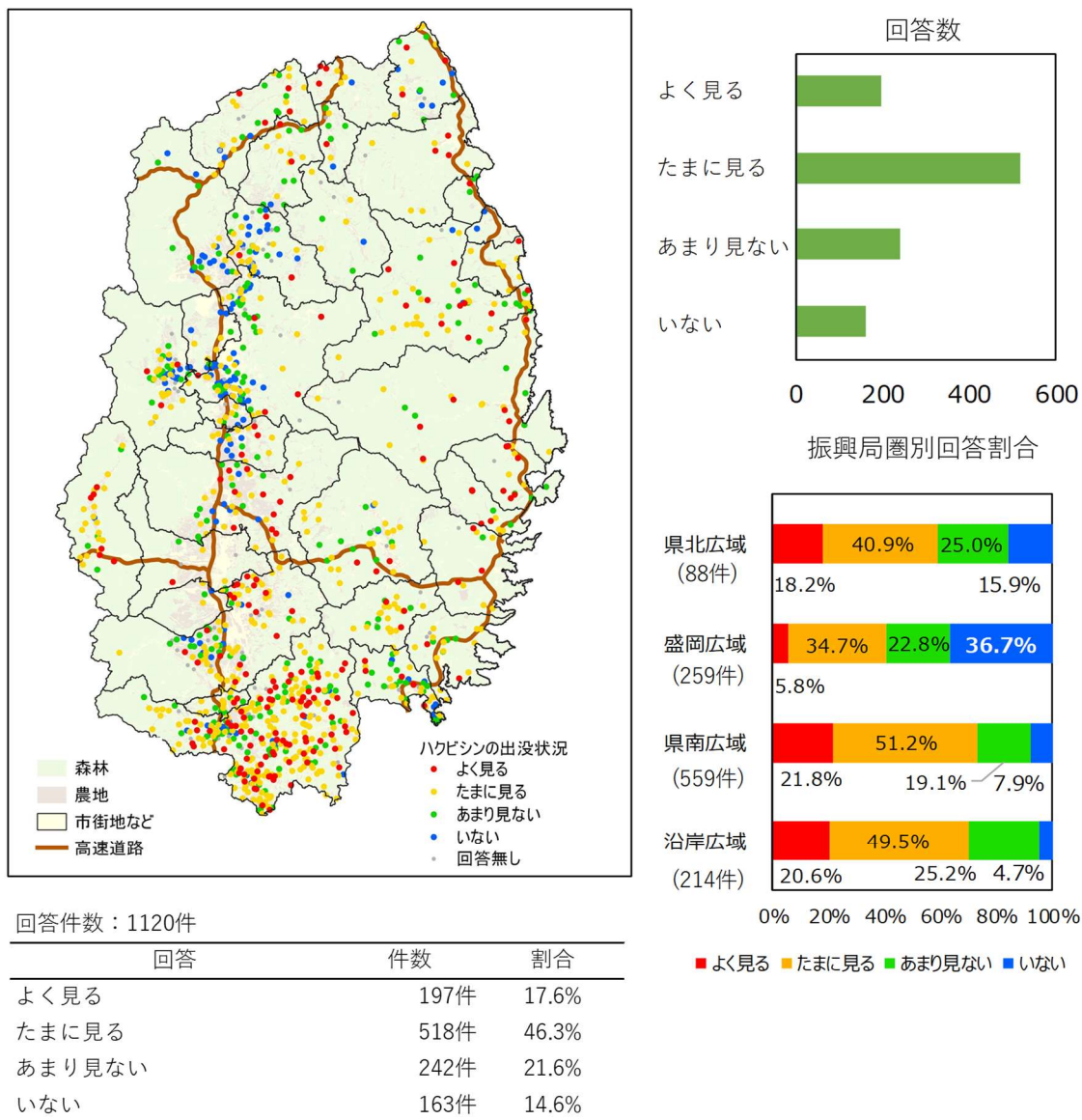


図 2-34 ハクビシンの出没状況

ハクビシンの出没状況についての回答（回答数 1,120 件）を図 2-34 に示す。

回答は、「よく見る」、「たまに見る」、「あまり見ない」、「いない」の 4 段階とした。

県全体では「たまに見る」の回答が多く（46.3%）、次いで「あまり見ない」（21.6%）となっている。圏域別に見ると、盛岡広域圏では「よく見る」と「たまに見る」の回答割合が他の圏域より低くなっている（40.5%）。

※「(2) 出没の増減」以降の調査は「(1) 出没状況」の回答項目で「いない」以外の回答を対象として集計したものである。

(2) 出没の増減

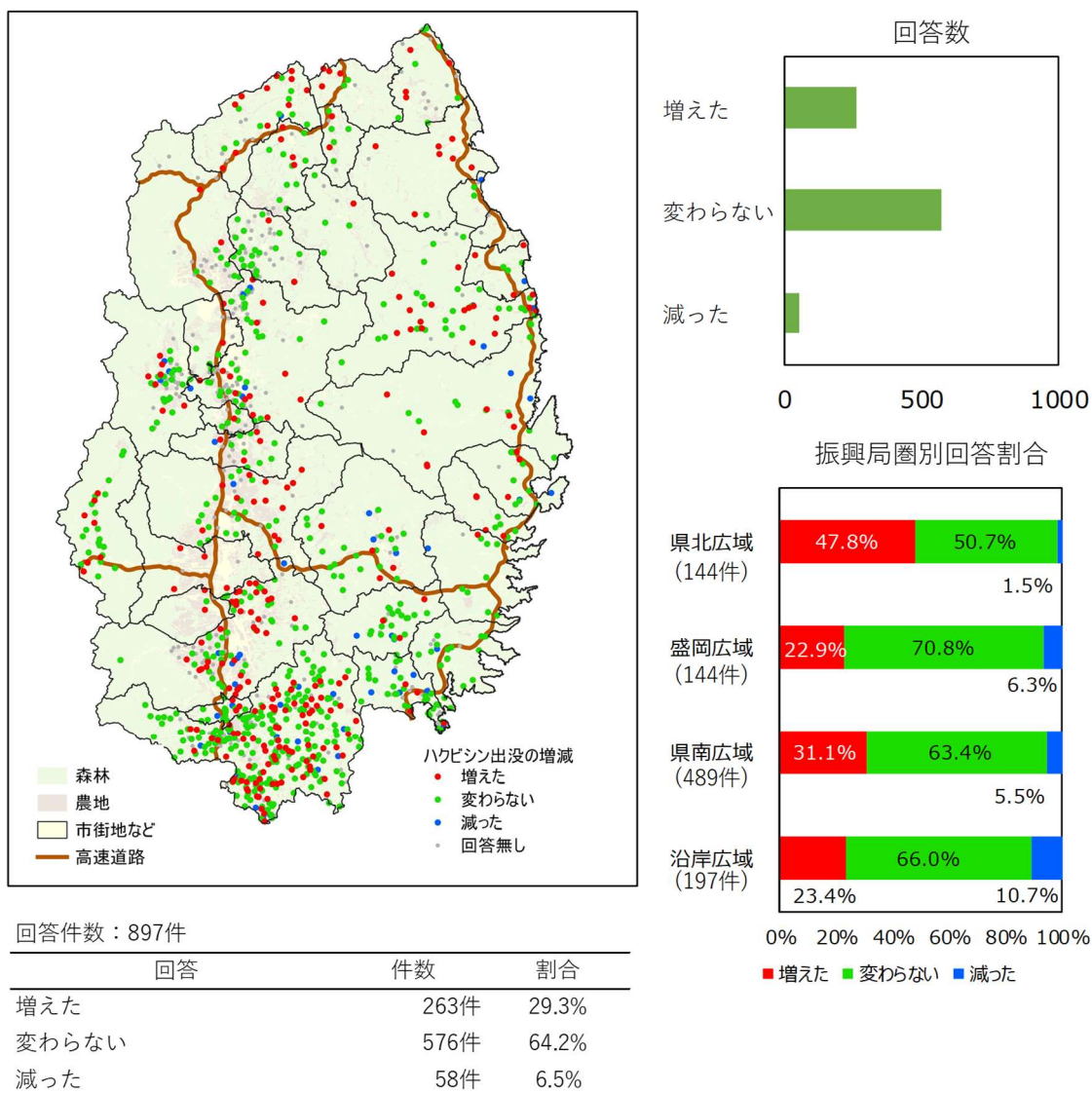


図 2-35 ハクビシンの出没の増減

前年度と比較したハクビシンの出没の増減についての回答（回答数 897 件）を図 2-35 に示す。

回答は、「増えた」、「変わらない」、「減った」の3段階とした。

県全体では頭数が「変わらない」との回答が最も多く（64.2%）、次いで「増えた」（29.3%）の順となっている。

圏域別に見ると、県北広域圏で「増えた」の割合が最も高くなっている（47.8%）。

(3) 農業被害の程度

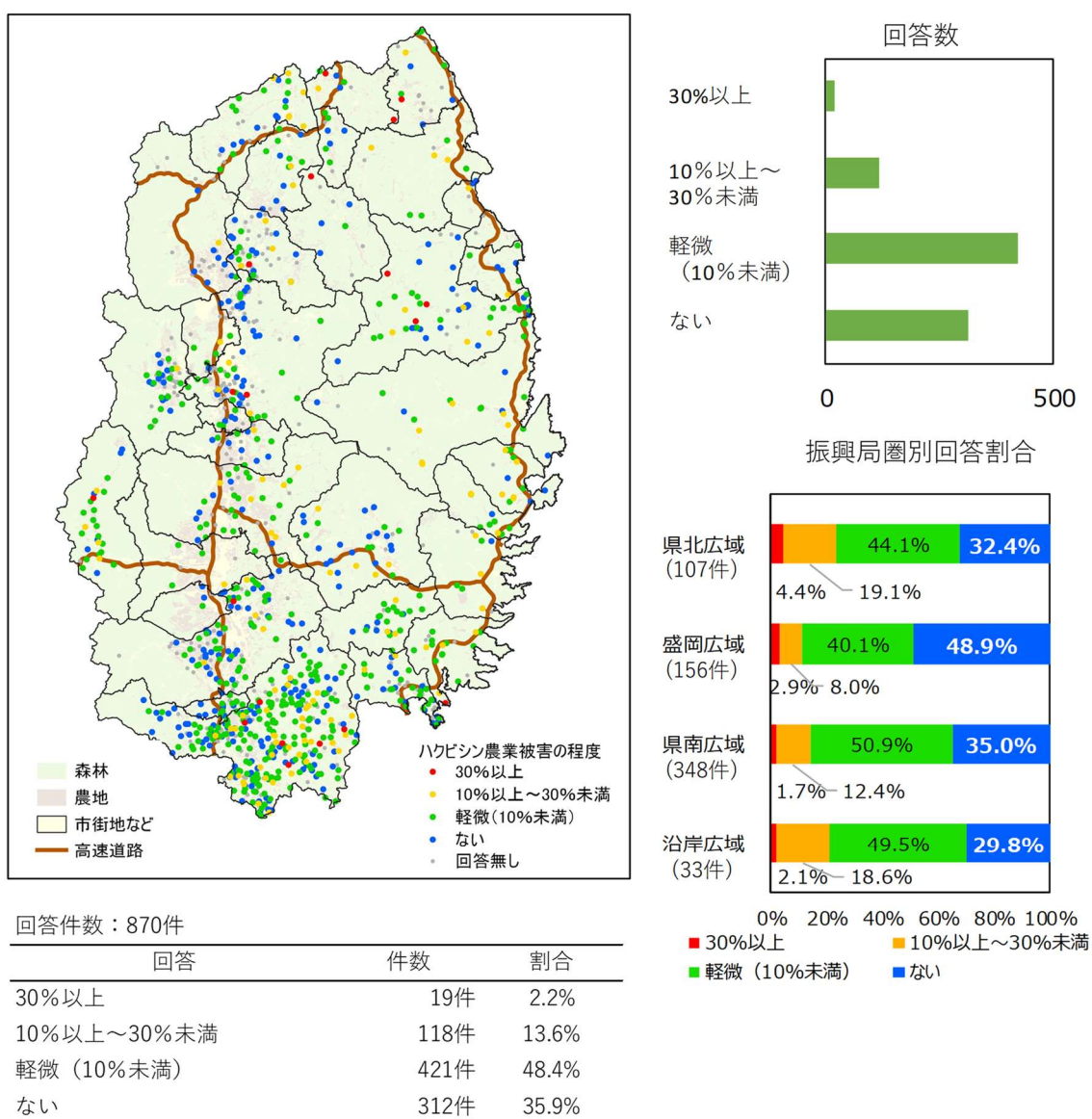


図 2-36 ハクビシンによる農業被害の程度

ハクビシンの農業被害の程度についての回答（回答数 870 件）を図 2-36 に示す。

回答は農作物の本来の生産量を 100%として「30%以上」、「10%以上～30%未満」、「軽微（10%未満）」、「ない」の4段階とした。

県全体では被害の程度について「軽微（10%未満）」の回答が多く（48.4%）、次いで「ない」（35.9%）の順となっている。

圏域別の被害の程度について「30%以上」と「10%以上～30%未満」の回答を合わせた割合は県北広域圏が最も高く、23.5%となっている。

(4) 取り組んでいる防除対策と効果

取り組んでいる防除対策とその効果について図 2-37 に示す。複数の組み合わせで行っている場合も合わせて集計した。

単独の防除対策は「防護柵」(187 件) との回答が最も多く、次いで「捕獲」(133 件)、の順となっている。

対策の効果については「捕獲」を「効果あり」とした回答の割合が 59% と最も高く、次いで「防護柵」(45%) となっている。

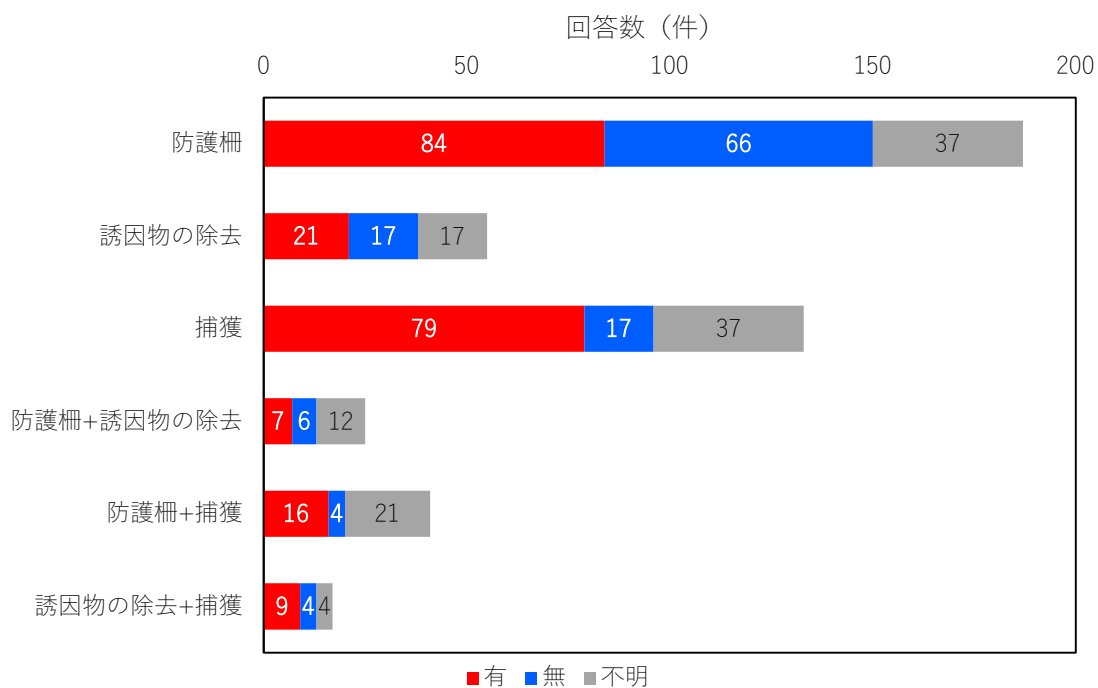


図 2-37 取り組んでいる防除対策と効果

8. カラスについて

(1) 出没状況

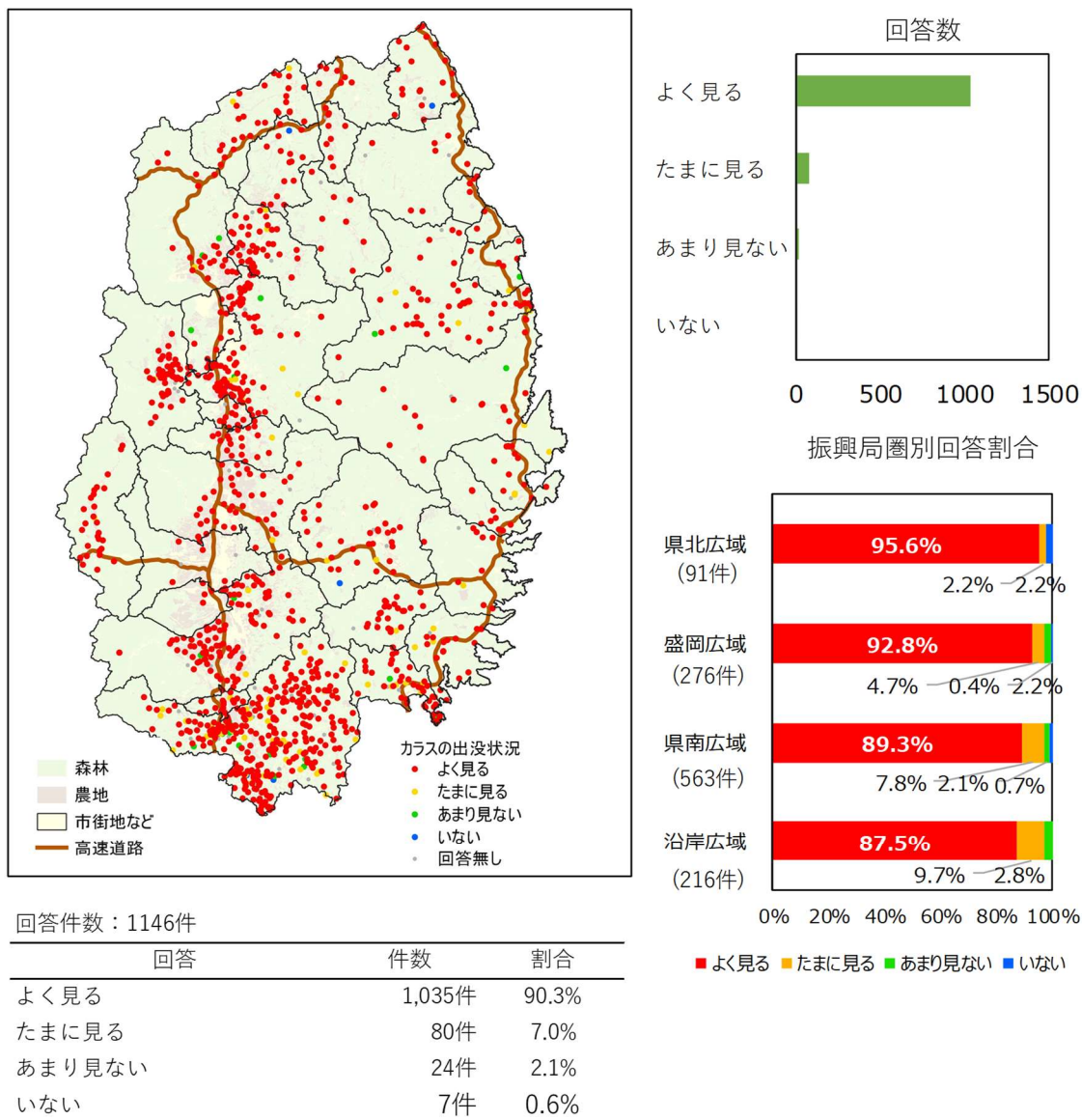


図 2-38 カラスの出没状況

カラスの出没状況についての回答（回答数 1,146 件）を図 2-38 に示す。

回答は、「よく見る」、「たまに見る」、「あまり見ない」、「いない」の 4 段階とした。

県全体では「よく見る」の回答が多くなっている（90.3%）。

※「(2) 出没の増減」以降の調査は「(1) 出没状況」の回答項目で「いない」以外の回答を対象として集計したものである。

(2) 出没の増減

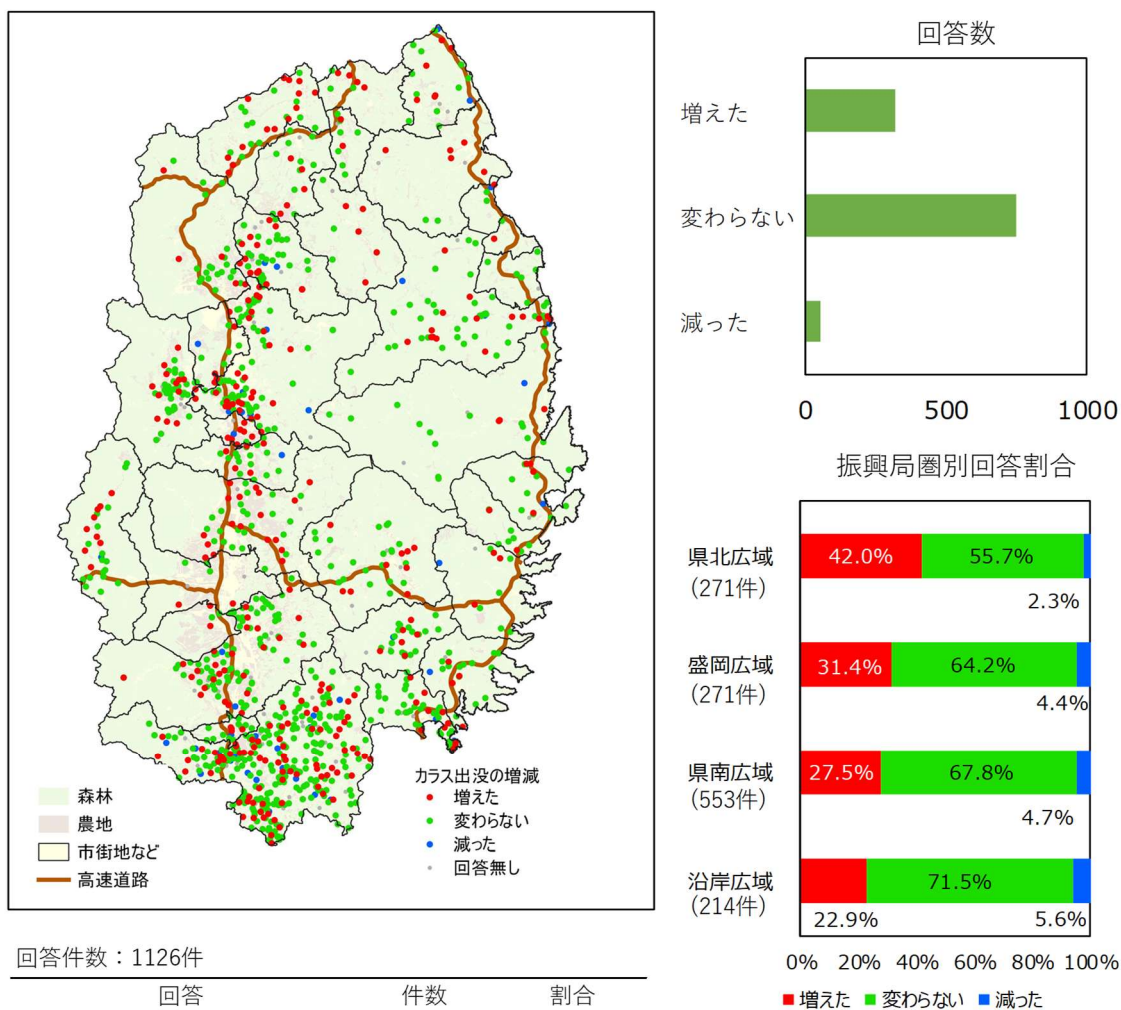


図 2-39 カラスの出没の増減

前年度と比較したカラスの出没の増減についての回答（回答数 1,126 件）を図 2-39 に示す。

回答は、「増えた」、「変わらない」、「減った」の3段階とした。

県全体では頭数が「変わらない」との回答が最も多く（66.7%）、次いで「増えた」（28.7%）の順となっている。

圏域別に見ると、県北広域圏で「増えた」の割合が最も高くなっている（42.0%）。

(3) 農業被害の程度

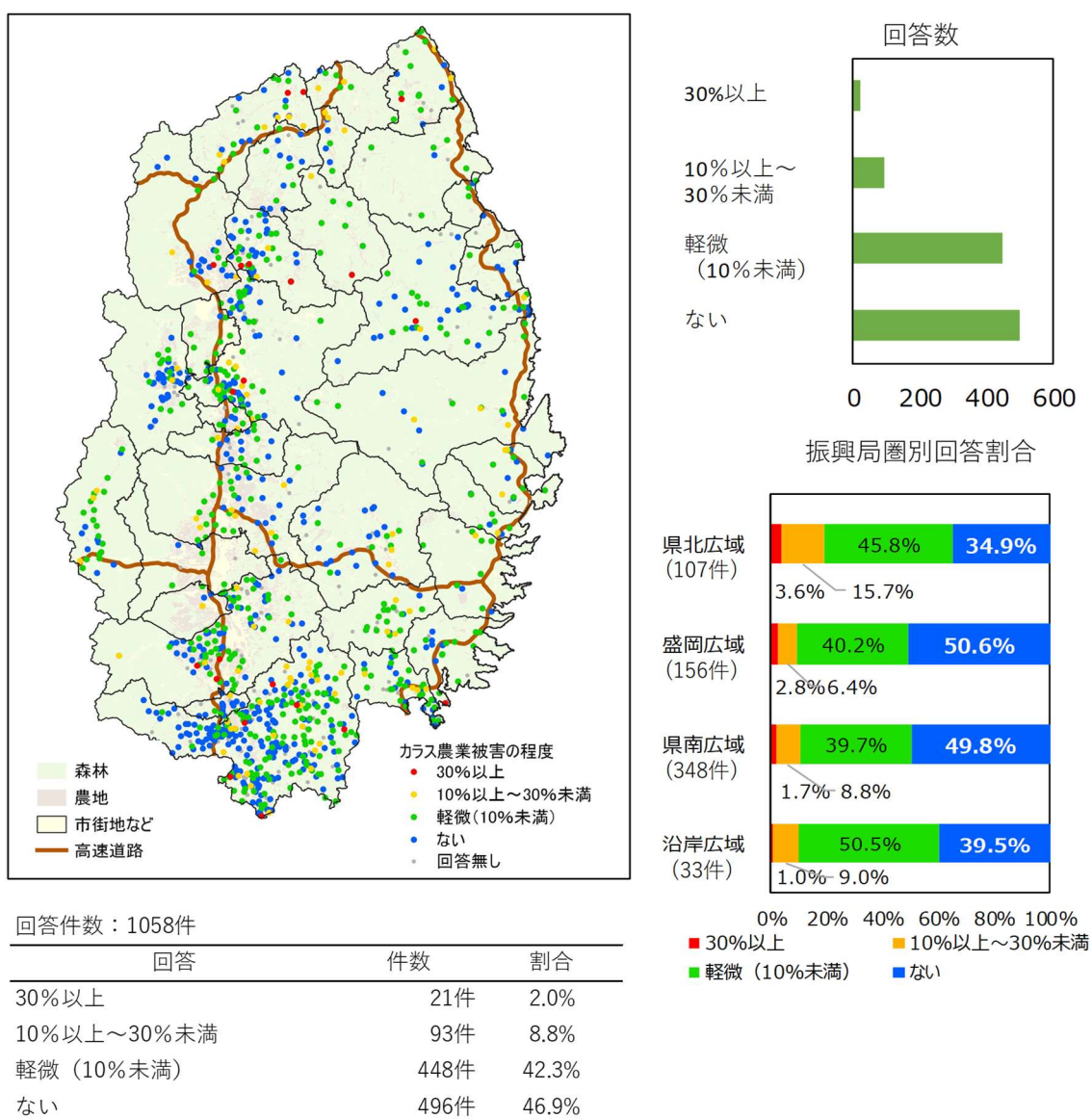


図 2-40 カラスによる農業被害の程度

カラスの農業被害の程度についての回答（回答数 1,058 件）を図 2-40 に示す。

回答は農作物の本来の生産量を 100%として「30%以上」、「10%以上～30%未満」、「軽微（10%未満）」、「ない」の4段階とした。

県全体では被害の程度について「ない」の回答が多く（46.9%）、次いで「軽微（10%未満）」（42.3%）の順となっている。

圏域別の被害の程度について「30%以上」と「10%以上～30%未満」の回答を合わせた割合は県北広域圏が最も高く、19.3%となっている。

(4) 取り組んでいる防除対策と効果

取り組んでいる防除対策とその効果について図 2-41 に示す。複数の組み合わせで行っている場合も合わせて集計した。

単独の防除対策は「追払い」(237 件) との回答が最も多く、次いで「防護柵」(79 件)、の順となっている。

対策の効果については「防護柵」を「効果あり」とした回答の割合が 75% と最も高く、次いで「誘因物の除去」(65%) となっている。

複数の防除対策の組み合わせとしては、「防護柵+追払い」(40 件) が多く行われている。

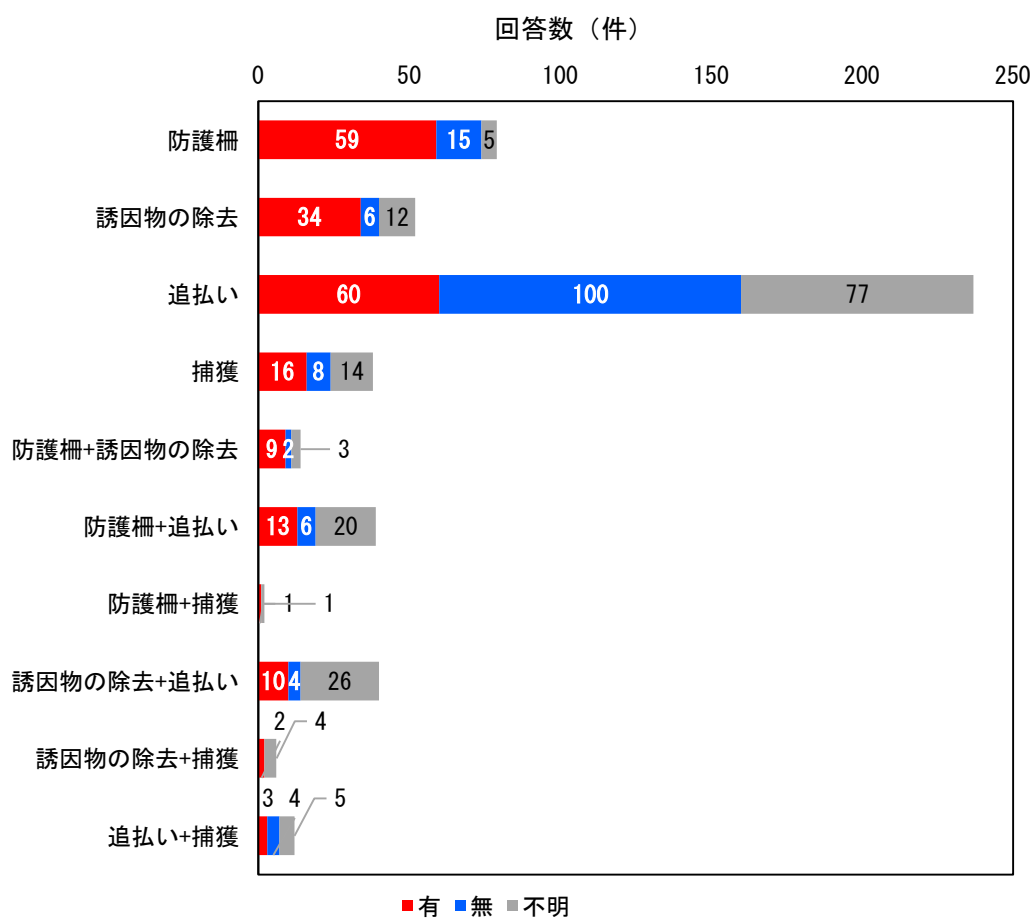


図 2-41 取り組んでいる防除対策と効果